

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立峰山小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
適切な教育課程を編成し、PDCAサイクルに基づく実践管理と組織的な教育実践により、児童にとって行きたくなる楽しい学校、保護者・地域から信頼される学校をつくる。		○教員の授業力が高められ、一層児童の学習規律・生活規律が向上し、基礎学力の底上げなど落ち着いた集団・児童個々の成長を更に醸成できた。 △「児童にも保護者にも見える客観的学力」を一層身に付けさせる必要がある。	(1) 学力の充実・向上を最大の教育課題として位置付け、教員の授業力向上を核とした総合的で具体的な方策の推進 (2) 安心と安定のある学級経営と不登校の未然防止 (3) P T A等と連携した安心・安全の充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	学力の充実・向上を最大の教育課題として位置付け、授業力向上を核とした総合的で具体的な方策を推進する。 (1) 児童が発言をつないで意見を交流し考えを深め合う授業 (2) 繰り返しのドリル学習や個別補習、個に応じた指導などによる基礎学力の完全定着 (3) 自律的な高い学習規律をもった学習集団の育成 (4) 家庭との連携による学習習慣の定着と家庭学習の質・量の向上	教職員の研修活動の充実と常に一体化して取り組む。 (1) 授業力を高める校内研修と、授業づくり・学習集団育成の実践を、指導教諭を中核にして活性化・日常化 (2) 中学校との授業づくりを通じた連携と研修 (3) 家庭と連携した家庭学習習慣定着に向けた取組 (4) 授業づくりを補完するドリル・補習等の組織的推進 (5) 意欲・判断等を高め、質の高い学習へと方向付ける評価 (6) 京都式少人数教育による少人数学級の良さを最大限に活用した丁寧な指導 上記を具体的に推進するため、学期1回、授業づくり、家庭学習の強化、学力定着をセットで取り組む月間を設け、教師・児童・家庭それぞれが集中的に実施(スリーアップ作戦)	○教員の授業力がアップし、授業づくり、家庭学習習慣定着、学力定着を一体とした取組が機能して、学習の規律や態度とともに学習の質が一層向上し、学習の楽しさを感じて取り組める児童が増えた。結果として、基礎学力の底上げ・定着ができた。 ○家庭学習、とりわけ自主勉強に自ら取り組める児童が増え、質・量ともに向上した。 △更に児童の学習態度と授業の質を高め、「思考力・表現力、学ぶ意欲も含めた質の高い学力」と共に「諸テストにおける点数の向上など目に見える学力」の充実を図る。 △中学校と連携して授業や取組の改善を進め、義務教育9年間を見通した学力の向上と、学習態度・学力定着の取組の好ましい接続を小中一貫教育を見据えて一層追求する必要がある。
生徒指導	学力を身に付ける基盤として、すべての児童に居場所がある学校・学級をつくる。 (1) 居心地のよい安心と安定の学級経営の充実 (2) 規範意識の徹底指導 (3) 異年齢を中心とした人間関係の充実 (4) 不登校の未然防止	(1) 児童を鍛え高める集会活動・異年齢集団活動、学級活動の実施 (2) 「あいさつ」「人や場に応じた言葉遣い」を中心に、心地よい生活規律と人間関係を高める指導の実施 (3) 学習・生活意欲のわく美しく整備された環境づくり (4) 京都式少人数教育による少人数学級を更に機能させ、学年・学級を安定化 (5) 早期対応と継続指導を重視し、問題行動や不登校を起こさせない生徒指導・教育相談体制の確立	○集会活動で整然と集合し、反応しながら話を聞くことができる児童が増えてきている。学校全体に肯定感・安定感が定着した。 ○高学年のリーダー性発揮のもと、豊かなふれ合いや心の成長がはぐくまれ、全校の一体感が一層広がった。 ○年間を通して、大きな問題事象、不登校が0で推移した。 △整理整頓や正しい言葉遣いの改善、大きな声で挨拶をすること、反応すること等、継続して取り組む必要がある。 △「豊かな心」について、児童の内面まで届き定着する指導力量を全教職員が身に付け、すべての学級で肯定的・安定的な学級経営が機能するようにする必要がある。
健康(体育)・安全	元気で規則正しい生活ができる児童を育成する。 (1) 健康で自己管理のできる体づくりを進める。 (2) 基本的な生活習慣の定着を図る。 (3) 学校内外の事故0を目指す。	(1) 学級経営と連動して、全員で励まし合い鍛え合う体づくりの取組の実施 (2) 高学年を中心として、校外の体育的行事への積極的参加 (3) 計画的・重点的な保健指導・食育指導と共に、家庭と連携した生活改善の取組を実施 (4) 交通安全の指導徹底と共に、P T A、峰小校区安全ボランティアの会との連携を重視	○朝の体力作りの取組は、学級経営と連動させた取組となり、大きな効果が得られた。 ○自転車ヘルメット着用が100%近くなるなど取組が進展し、また、耐震化工事が行われる中、大きな事故なく1年が終了しようとしている。 △食を含む基本的な生活習慣改善については、一層家庭と連携して粘り強く取り組む必要がある。

特別支援教育	(1) 通常の学級において特別な教育的ニーズのある児童に対する適切な支援を進める。 (2) 特別支援学級と通級指導教室の教育活動を充実し、校内における支援センターとして機能させる。	(1) きめ細かな学級経営により、支援し合う学習集団の育成と一人一人の課題に応じた指導支援を実施 (2) 毎週1回を基本とした実態把握と指導計画の策定 (3) 特別支援学級担当による通常学級の支援、スクールサポーターの活用 (4) 通級指導教室担当者を中心とした実態把握と通常学級担任への具体的支援の実施	○通常学級のきめ細かな学級経営が機能し、教育上特別な配慮や指導の必要がある児童が安定的に力を伸ばした。 ○特別支援学級・通級指導教室の指導が充実し、当該学級児童の発達が促進された。また、特別支援学級の学習発表会等での発表を実施することにより、全校児童への理解教育が進んだ。 ○年間を通して保護者と有意義な教育相談が実施できた。 △個別の指導計画を活用し、一層の成長を支援する具体的な取組に結び付ける必要がある。
研修(資質向上の取組)	(1) 「学力の充実・向上」と一体化した研修により、すべての教員の指導力を高める。 (2) 結果として授業力や授業の質を向上させる。	(1) 指導教諭を教員の指導力を高める要として日常的な指導・助言と研修に活用 (2) 全員で学習を創り合う学習集団の育成を実践的に研修 (3) 国語科を中心に教材分析や指導方法、授業の改善についての研修を日常的に行い、毎日の授業の質を向上 (4) 上記(1)～(3)を具体的に機能させるため、スリーアップ作戦(教育課程・学習指導の項を参照)で、授業づくりを中心にした全体研修・自己研修を集团的・日常的に実施	○指導教諭を中心とした授業づくり等の校内研究や自己研修・グループ研修が日常化・活性化し、教員の指導力向上につながった。 ○結果として授業力や授業の質が向上し、教員・児童ともに授業を大切にする学校風土が一層育ってきた。 △すべての教員が更に授業力を高め、目に見える学力も含め思考力・表現力・活用力の充実・向上へつなげていかなければならない。
開かれた学校づくり	(1) 学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。 (2) 学校改善に、保護者・地域の声を活かす。 (3) 外部の力を活用し、学校の教育活動の質を向上させる。	(1) 定期的な授業・行事参観、日常的な家庭訪問、学級懇談会などの実施 (2) 各種たより、学級通信等による教育活動や情報の積極的な発信 (3) 保護者・児童への評価アンケートを行い学校改善に活用 (4) 学校評議員との連携、学校関係者評価により学校改善を推進 (5) 地域の人材、学校支援ボランティア事業等の外部の人材活用	○読書活動推進等のPTAの取組などについて、丹後地方を中心にその内容や成果を発信することができた。 ○学校だより等による学校方針の発信、学級通信の積極的発行により、保護者との連携が一層進んだ。 ○PTA人材や学校支援ボランティア事業等の活用により、豊かな教育活動を実施することができた。 △「目に見える学力の充実・向上」について、取組過程とその結果について更なる具体的な発信が必要である。 △学校評議員、学校外部評価委員、民生児童委員等との連携を質・量ともに高める必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 児童の学習態度と授業の質を高め、「思考力・表現力・活用力や学ぶ意欲も含めた質の高い学力」と共に「諸テストの点数の向上などの目に見える学力」の充実を一層図る。 (2) 府給研推進委託校による「食に関する研究実践」について国語科の授業づくり研究で積み上げてきた指導方法も活かしながら取組を推進する。 (3) 学力の充実・向上や生徒指導等の教育活動について、小中一貫教育を見据えて中学校区の他の学校と連携した研究と実践を充実させる。 (4) 児童の内面まで「豊かな心」を定着させるための指導を、家庭と連携して充実させる。 (5) 学校の積極的な情報発信のもと、保護者、PTA、地域、学校評議員等との連絡・連携を一層強化し、教育活動の質の向上につなげる。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉原小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
①よく学び、自分で考えて行動できる児童を育てる。 ②みんなを大切にし、思いやりのある心を児童に育てる。 ③心も体も健康で、最後までやり抜く児童を育てる。		○児童に「伝える力・書く力」を付ける具体的な取組をした結果、全員参加の授業づくりや作文力が付いた。また、ノート指導を統一しノート展を継続したことで、丁寧なノートが増えた。 ○生徒指導部と児童会が連動した創意工夫ある取組により、規範意識が向上した。 △児童の自尊感情や他者理解をさらに向上させる。 △健康な体をつくる自己管理能力を児童に育てる。	①人権教育を大きな柱として人権尊重を基礎にした環境づくりと学校づくりを進める。 ②話をしっかりと聴き、自分の思いを伝えられる児童を育てる。 ③家庭と連携して学校を休まない児童を育てる。 ④地域の教育力を活用し、地域と連携した教育を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	①重点研究「算数科」を中心に、学習指導全体の中で、 ・主体的に学習し、最後までやり切る力を付ける。 ・表現力を付ける。(書く力・伝える力) ②児童にゴール（目標）を明らかに頑張ることの大切さを教える。	①授業の中にペア対話と接続後を使用した説明を入れたり、授業の振り返りに書くことを入れたりする。(研究授業では最低条件とする。) ②授業の足跡が分かるノート指導とノート展の開催 ③チャレンジ課題の設定 ④家庭頑張り週間の設定 ⑤漢字検定への挑戦 ⑥授業のゴールを明確にする。 1年間の授業のゴール・学期の授業のゴール 単元の授業のゴール・1時間の授業のゴール ⑦その道のプロを活用し、教育の質を上げる。	△ペア対話は定着したが、積極的に発言する意欲や語尾まではしっかりと大きな声で話す話し方には課題が大きい。 ○年度末には全校児童のノート展を開催し、ノート指導の大切さを再認識できた。保護者からも良い評価を得た。 ○各学年のチャレンジ課題では、学期末のテストでクラス全員が満点を取るクラスが出た。 ○「夢の授業」など、ゴールを明確にした取組により児童の頑張りが児童・教師・保護者に目に見える形となり、児童自身が自分や学級の成長を感じることができた。年度当初に、年度末にはこれができるようになりたいと書いた個人目標の8割以上が達成できた。 ○学校支援ボランティア、出前講座など、30人以上の活用を図り、教育の質が向上した。
生徒指導	①高い人権感覚を身に付けた児童を育てる。 ②一人一人に居場所のある学級づくりを行う。	①自尊感情や他者理解を深める取組を進める。年間を通した「キラリ見つけた」 ②学校生活のゴールを明確にする取組を月ごとや学期ごとに行う。「大空へ進めこいのぼり」「やりきり星」など	○特技や頑張っていることを発表する「キラリ見つけた」は、学校の特色ある取組となった。一年間で全員発表を目指し、達成できた。毎回の発表を児童は大変楽しみにし、他者理解につながった。 ○生徒指導部の月目標に沿った児童会活動と連動した多く

生徒指導			の取組ができ、学校生活を楽しむ様子が伺えた。「吉原っ子オールスターズ」「大なわ跳び大会」など △挨拶の声が小さい。子ども同士で名前の呼び捨てが多い。学級の人間関係が対等でない課題が見える。
健康（体育）・安全	心身の健康を守ることの大切さを理解し、実践できる児童を育てる。	①健康に気を付ける児童を育て、結果として児童の欠席を減らす。 ・欠席者（理由）の早期把握 ・家庭との連携・啓発 ・保健指導 ・欠席統計のグラフ化 ②体力づくり（朝マラソン・縄跳び） ③家庭と連携した基本的習慣の確立を図る取組 ・家庭教育頑張り週間 ・休業明け生活点検	△一年を通した体力づくりや保健指導に力を入れたが、病欠の児童が非常に多かった。（2月迄で総欠席日数572）健康な体づくりや健康への自己管理能力を付けるとともに耐える力や我慢する力といった心を強くする取組を一層進めなければ改善されない。 ○家庭生活と学習を見直す取組では、1学期は重点目標の設定、2学期は自主学習のポイント制、3学期は表彰を途中に入れたことで、家庭学習への意欲や質が上がっただけでなく、生活に改善が見られた児童が多かった。
特別支援教育	支援を必要とする児童のニーズに応じた支援と指導方法の改善を図る。	①通常学級に在籍する支援を必要とする児童への丁寧な支援と保護者への教育相談の充実 ・全校補習 ・吉原漢字塾 ・教育相談部の定例化 ・学校外支援センターとの連携	○全校補習・吉原漢字塾といった全校体制やボランティア活用した取組が進み、丁寧な個別指導ができた。 ○校内及びＳＣとの教育相談が進み、保護者に安定が見られ、児童によい影響が出た。
教職員研修	①初任者研修の充実を図る。 ②地域を知り、地域の教育力を活用し、指導力の向上を図る。	①初任者研修を年間計画に基づいて組織的に行い、授業力を付ける。 ②教員が地域のことを知り、地域と連携した教育を行うための研修に力を入れる。 ・校区内フィールドワーク ・地域の人材の発掘	○組織的な初任者研修により、指導力や児童理解力を付け、学級経営の安定が図られた。 ○夏季休業中に校区内フィールドワークを行い、校区の歴史や自然について理解を深めた。また、総合的な学習の時間を中心に校区の人材活用が飛躍的に伸びた。
開かれた学校	保護者・地域と連携した安心・安全で開かれた学校づくりを進める	①保護者や地域関係機関との連携と丁寧な情報発信を行う。 ・見守り隊との連携 ・毎月の授業参観 ・学校だよりやホームページでの学校の取組の紹介	○授業参観や学校行事への出席率が大変高く、この機会を利用して学校の取組を保護者に説明し、評価を求めた。また、見守り隊との会議を定期的に開催し、学校の取組への理解を図った。 △定期的にホームページの更新をする。
次年度に向けた改善の方向性	人権教育を大きな柱として、互いの個性や価値観の違いを認め、自己尊重と他者理解できる児童を学校教育全体で育てる。 ①全ての学校行事に人権の視点を位置づける。 ②教職員の人権感覚の高揚を図る。 ③基礎学力の充実を図る。 ④規範意識の向上を図る。（挨拶・名前の呼び方） 学校欠席理由（病気）から見えてくるものを徹底分析し、児童課題を明らかにし、家庭と連携して学校を休まない児童を育てる。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立五箇小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 「学力の向上」を最重点課題とし、全教育課程の中で『いつでも楽しい学校』を目指した取組を進める。 2 3つの達成目標「やさしく伝え合う」「いきいきやりきる」「はげまし助け合う」を課題とし、PDCAのサイクル実践を進める。		1 全校的に落ち着いた学習態度で授業ができるようになった。更に、教職員の意欲を大切にし、協働意識を高め、児童が生き生きと活動する学校をつくる。 2 特別支援学級の新設に併せて、理解教育の充実を進めていく。 3 全ての教育活動を進める中で、保護者との連携を大切にしたい取組を進める。	1 学習規律を確立させ、教材研究を行い、児童の興味関心が引き出せる指導方法を行い、日常の授業を充実させる。 2 学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係・児童相互の好ましい人間関係を育成する。 3 保護者・地域と連携した取組を進め、情報を発信し、開かれた学校づくりを行う。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 日々の授業を充実させる。 2 授業実践力の向上と授業改善を図る。 3 基礎・基本の徹底を図る。 4 実態を把握し、回復指導・補充学習を行う。	1 国語科の授業研究を中心として一人年2回の授業公開に取り組む。 2 実態分析を基に、家庭学習頑張り週間・ノート展に取り組む。 3 教科の基礎・基本（百ます計算・漢字の定着・都道府県名を覚える等）を身に付けさせる取組を行う。 4 学校支援ボランティアを活用し、補充学習に取り組む。	○一人年2回の公開授業に取り組むことで、職員研修が充実し、日々の授業の充実につながった。 ○家庭学習の手引きを配布し、家庭学習頑張り週間・ノート展に取り組むことで、家庭学習に取り組む児童が増え、丁寧なノートが多くなった。 ○百ます計算4分以内（九九）・都道府県を覚える等具体的な目標を設定し、練習させることで、身に付けさせることができた。 △検証テストの平均点を向上させ、見える学力の向上を図る。 △家庭での読書習慣を身に付けさせる必要がある。
生徒指導	1 学級経営の充実を図る。 2 望ましい集団活動を通して、課題を克服する取組を進める。 3 児童の把握と内面理解に努める。	1 各担任がこだわった学級経営実践をレポートし、研修する。 2 生徒指導部会を定例化し、2週毎に具体的目標を設定して、全校が常に課題を共有した指導に取り組む。 3 学期毎の重点的な取組（五箇りんピック・運動会・大縄跳び）を設定し、児童のかかわりを作る。 4 早期対応と定期的な保護者との懇談を行う。	○生徒指導部の月目標の設定に伴い、教職員が一致した指導ができ、児童が安定した生活を行うことができた。 ○高学年のリーダー性発揮のもと、豊かな触れ合いや心の成長が見られ、全校一体感を味わうことができた。 ○年間を通して大きな問題事象、不登校が0で推移することができた。 △全ての学級で、児童の内面まで豊かにすることができる指導力を身に付ける研修を行う必要がある。
健康（体育）・安全	1 家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立を図る。 2 「京の子ども元気なからだスタンダード」の効果的な活用を通して運動やスポーツの好きな児童を育成する。	1 基本的な生活習慣の確立に向けて、生活点検に取り組む。 2 「京の子ども元気なからだスタンダード」の研修・測定を行う。 3 「京の子ども元気なからだスタンダード」と関連した公開授業を行う。	○学期に1回定期的に生活点検を実施し、結果を便りや懇談会等で説明することで、児童・保護者の意識を向上させることができた。 ○スタンダードの公開授業を行い、授業改善を行うことができた。児童が休み時間等にも進んで鉄棒をすることが増えた。運動の好きな児童が増えた。 △生活習慣が身に付いていない児童に対して、一層家庭と連携していかなければならない。

特別支援教育	1 特別な教育的ニーズのある児童に対する適切な支援を進める。 2 特別支援学級における個別の教育支援計画・個別の指導計画等により、個に応じた指導の推進を図る。	1 いさなご学級児童の頑張りを知らせる場を設定する。 2 配慮を要する児童について、アセスメント票・個別の指導計画を作成する。 3 特別支援校内委員会を月1回定例開催し、児童実態を把握し、指導計画を改善する。 4 必要に応じて保護者との懇談を持ち、連携を図る。 5 関係諸機関と連携し、就学指導を行う。	○配慮を要する児童のアセスメント票や個別の指導計画を作成したり、活用した研修を行ったりすることにより、指導課題について全教職員で共通理解し、具体的な指導に生かすことができた。 ○校内委員会で定期的に実態把握を行うことで、本人のよさを生かした指導方法の改善を図ることができた。 ○年間を通して保護者と有意義な懇談を行うことができた。 △個別の指導計画をより一層見直し、具体的な取組に結び付けていく必要がある。
研修（教職員の資質向上）	1 指導力向上に向けた研修を行い、専門的な指導力量の向上を図る。 2 授業の質を向上させる。	1 国語科の授業研究を中心として一人年2回の授業公開に取り組む。（外国語活動・体育科・社会科・算数科） 2 模擬授業を行い、発問について研修し、児童が主体的に思考する授業に取り組む。 3 実技研修を行う。（外国語活動・社会科フィールドワーク・絵を見る会・体育科・ノート指導） 4 学級経営の研修に取り組み、指導力量を高める。	○一人年2回の公開授業を行うことで、校内研修・自己研修・グループ研修を活性化することができ、教員の指導力の向上につながった。 ○具体的な授業を観たり、実技研修を行ったりすることにより、各教員が授業の中に取り入れることができた。 ○各担任がこだわった具体的事例をレポートすることで、研修の中で話し合うことができ、指導方法を学び合うことができた。 △全ての教員が指導力を身に付け、見える成果を作り出す必要がある。
開かれた学校づくり	1 積極的に学校の情報を発信し、信頼される学校につなげる。 2 地域から学ぶ取組を進める。 3 学校事務改善校として保護者の理解を得ながら学校徴収金処理の事務改善を行う。	1 年間を通して授業公開・学校公開を行う。 2 学校たより・学級通信・各種たより等により情報を積極的に発信する。 3 ホームページを月1回更新する。 4 地域の人材を生かした学習を行う。 5 公民館・老人会・民生児童委員等地域関係機関と連携する。 6 学校徴収金処理等の学校事務の改善を行う。	○公開授業・学校公開・各種たよりの発行・ホームページの更新を通して、学校の取組を発信できた。また、取組のアンケート結果のまとめを発行することにより、学校の方針の理解につながり、保護者との連携が一層進んだ。 ○左義長・節分行事等、地域の方の協力を得て、子どもたちの心に残る取組や伝統行事を行うことができた。また、地域の教材を生かした学習（社会科・国語科）を行うことができ、地域と結び付いた学校となった。 ○学校徴収金について、保護者の理解を得ながら、事務改善を行うことができ、教員が、児童に向き合う時間を確保することができた。 △学力の充実向上について、見える成果として発信していく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	「いつでも楽しい学校」をここ数年設定して取り組んできたが、より児童の実態と合わせた課題設定を行っていくため達成目標を改善し、より成果の見える取組を行う。「自分なりの考えを表現することができる」とことと学力の充実・向上を結びつけて取組を進める。 1 児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。 2 学力の充実・向上や生徒指導の教育活動について、中学校と連携した取組を進める。 3 一人一人の教員が、児童の内面理解をすることができ、授業の質を高められる研修を進める。 4 家庭と連携し、生活習慣を確立させると共に、家庭での読書を定着させる。 5 積極的な情報発信を行い、保護者・PTA・地域との連絡・連携し、教育活動の質を高める。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学力の充実・向上を図り、学習することが楽しいと感じる児童を育成する。 2 自らの内面が豊かであるとともに、他者との関係が豊かな児童を育成する。 3 自律と協働の組織理念を共有し、信頼される学校づくりを推進する。		○外国語活動実践研究校として、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、英語活動の授業研究を進め、年間指導計画を整備することができた。 ○学力の充実・向上と個性や能力の伸長を図り、学習することが楽しいと感じる児童を育成するため、教育活動・指導法の工夫・改善を進めることができた。 △自らの課題を解決する実践力を育成するため、自己判断や自己決定を促す指導を充実させる。 △組織的・効率的・機能的な学校運営を推進するためのシステムの構築を行う。	1 言語活動を充実させる授業を工夫し、学力の充実・向上を図る。 2 子どもが安心して学べる学級経営を進める。 3 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を進める。 4 子どもと教職員、子ども相互の心のふれあいを大切にし、良好な人間関係の育成に努める。 5 外国語活動研究成果を継続させるとともに、授業改善のベースとなる授業研究の充実を図る。 6 学校評価制度、教職員評価制度を活用して、信頼される学校づくりを進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、学習意欲を高める魅力ある学習指導を行い、基礎的・基本的な学力を身につけさせる。	・基礎学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善に取り組む。 ・少人数指導（算数科）による授業改善に取り組む。 ・国語科による授業研究に取り組み、「ことばの力」を育成するための授業改善に取り組む。 ・全校補習、昼ドリル時間、朝読書の充実を図るために教育課程編成の工夫を行うとともに、組織的指導体制を整える。 ・定期的に効果測定を行い、早期回復指導に取り組む。 ・全教育活動で言語活動の充実（書くこと・読むこと・読書）を図る。 ・家庭訪問、連絡ノート、懇談会、各たよりにより家庭との連携を図り、生活習慣、家庭学習課題の改善に取り組む。	○基礎学力診断テスト結果分析、学期毎の基礎学力達成状況をふまえ、早期に、個に応じた学習課題克服に向けて取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。 ○国語科の重点研究により、文学的教材を中心に「ことばの力」を育成するための授業づくりが行えた。 ○算数科を中心とした少人数指導、全校体制による個別補習、言語活動の充実に向けた取り組みにより、個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎学力の定着を図ることができた。 △さらに、日々の授業改善、効果測定に基づく個に応じた即時回復指導についての工夫、徹底を図る。 △さらに、家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。
生徒指導	○人権尊重、規範意識の醸成という観点に立ち、教育活動全体を通じて、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、自ら考え判断して、生活上の諸問題を解決する力を培う。 ○「いじめ」「不登校」等の諸問題に対しては、日常的な教	・思いやりの心と豊かな人間関係を育むために、多様な異年齢活動に取り組む。 ・自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童が自己決定をしていく場を増やした指導を行う。 ・学期毎に実施する学級経営評価の充実を図る。 ・学級経営の安定を図るための事例研究(学習集団の育成・人間関係づくり・自治的活動)に取り組む。 ・定例生徒指導部会を充実させ、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚、日常的課題事象に対し、	○年間を通して多様な異年齢活動が取り組み、日常的にも異年齢の豊かな人間関係の育成の成果が見受けられた。 ○各学級課題克服に向けての事例研修に基づく学級経営実践により、各学級課題の克服を図ることができた。 ○生徒指導部のセンター機能の発揮による課題把握・解決方針提起、日々の発信等により、生徒指導課題について継続的・組織的に取り組み、改善を行うことができた。 △さらに、いじめ・不登校の未然防止、事故・怪我の減少、規範意識の醸成を図るための日常的な取組を充実させる

生徒指導	育相談活動の充実を図る。	生徒指導部のセンター機能の強化、指導の充実を図る。 ・生徒指導上個別な支援が必要な児童について、支援会議を持ち、支援内容・方策・体制・家庭との連携内容の確認を行い、組織的に取り組む。	ための生徒指導部の機能の強化を図る。 △学級・児童会における自治的な活動を充実させる。 △安全な登下校の仕方、家庭での基本的生活習慣の確立など、家庭・地域との連携の強化を図る。
健康（体育）・安全	○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を目指す。 ○早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立するとともに、健康で安全な生活を営む、たくましい実践力を育成する。	・年間を通して体力づくりに取り組む。（朝マラソン、朝縄跳） ・年間を通して、計画的に食育・保健指導に取り組む。 ・生活点検を実施し、生活改善に取り組む。 ・より良く生きるため性教育・薬物乱用防止教育に取り組む。 ・施設点検・管理を徹底し、安全指導に取り組む。 ・様々な危機状況を想定した、実践的な避難訓練に取り組む。 ・登下校の安全を守るため地域・PTAと連携して取り組む。	○年間を通して体力づくりの取組を充実させることができ、基礎体力の向上を図ることができた。 ○危機管理意識の高揚と、対応力を高めるための連携・訓練を行い、危機管理力の向上を図ることができた。 ○地域連携の充実による地域安全の取組が行えた。 △生活点検結果の活用により、早寝早起きの改善を図る。 △生活安全に関わる環境整備・施設整備に取り組む。
特別支援教育	○心身の障害の状態や特性に応じ、一人一人の教育的ニーズに応じた、すべての子どもを支援する教育を推進する。 ○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」の育成を図る。	・月1回の支援会議により児童実態の把握を行い、指導・支援の在り方について協議し、全校体制で指導に取り組む。 ・正しい発達障害についての理解、発達障害児童の指導を行うための理論的研修に取り組む。 ・関係機関と連携を図りながら、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援を行う。 ・障害のある人を正しく理解するための理解教育に取り組む。	○関係機関との連携、定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、共通理解を深めながら、個別な支援が必要な児童についての個別支援の充実を図ることができた。 ○発達障害理解・特別支援体制の充実に関わる研修を行い、個に応じた充実した支援を行うことができた。 △さらに、校内の特別支援教育体制の整備、個別の指導計画の充実を図り、個に応じた支援の充実に努める。
研修(資質向上の取組)	○使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性をめざした研修を行い、実践的指導力の向上を図る。	・年間研修計画により、教科指導力、生徒指導力の向上、対応力向上をめざした理論研修・事例研修に取り組む。 ・今日的教育課題・新学習指導要領に関わる研修に取り組む。	○年間計画に基づく専門性・対応力の向上に係る理論的研修・実践的研修が実施でき、実践力の向上に繋がった △さらに教科指導・学級経営・今日教育課題に関わる研修を充実させ、専門性の向上を図る。
開かれた学校づくり	○PTA、地域社会と子育て課題を共有し、その克服を図るとともに、地域の教育資源や人材を学校教育活動の充実に活用するための、保護者・地域社会に開かれた学校づくりを推進する。	・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携を図り、子育て課題克服に向けて協力して取り組む。そのための電話連絡、家庭訪問、各たより、学校HP等の充実を図る。 ・地域の教育素材、人材を学校教育の充実に活かしていくための連携の在り方を探り、仕組みを構築していく。	○連携課題を明確にして、個別に迅速で丁寧な家庭との連携、発信のねらいを明確にした各たよりの発行が行えた。 △さらに、PTA、地域の各団体との連携を充実させ、地域連携の仕組みを整える。 △さらに、地域の教育素材・人材を活用し、教育活動の充実を図っていく。
次年度に向けた改善の方向性	【推進】 ・学校課題を克服するために、さらに学校運営システムの整備（運営会議、企画委員会、分掌部会の計画的運営と各会議間の連携の工夫）を図り、組織的・効率的・機能的なPDCAマネジメントによる学校運営を行う。 【教育活動・研修活動】 ・全教育活動で言語能力の向上をめざした教育活動を充実させる。国語科を中心に、授業改善の取り組みを充実させる。 ・人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して、生活上の諸問題を解決する力を培うための指導を充実させる。 ・課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動を充実させる。教科指導・生徒指導力・対応力の向上を図るための実践的研修を充実させる。 【連携】 ・家庭・地域との連携を充実させ、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。		

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立丹波小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「一人一人が輝き いきいきえがお があふれる学校」をテーマに、「楽しい学習」、「共感できる学級」、「魅力ある全校活動」の3つの教育活動を柱に、地域から信頼される開かれた学校づくりに総力をあげて取り組む。		○不登校が解消し、前年度課題のあった学級も安定した。全学年で児童の言語活動が活発になり、児童が肯定的に変容しつつある。 △家庭と連携した学力向上の取組、「かしこく 仲良く 元気よく 生き生き笑顔の児童の育成」の更なる具現化が必要である。	前年度評価から生れた「見落とさない・見過ごさない・見守り続ける」という教師像を堅持し、学校課題や児童課題を明確にしながら、経営方針にある3つの教育活動を重点的に推進していく。 (展望する・つながる・挑戦する3つの力の具現化)
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	国語の授業研究を生かした学習指導を他教科へも広げ、児童の学力充実・向上を図る。 ①言語・表現活動の重視 ②基礎・基本の指導の徹底 ③学び合う学習集団の育成 ④保護者と連携した家庭学習の強化	国語の授業研究を中心とした校内研修を活性化させ、その成果を他教科にも生かし、教職員の指導力の向上を図る。 ・楽しい学習（書く、読む等の言語・表現活動）の重視 ・重点教科以外でも児童の学習意欲を引き出す指導や学力向上につながる基礎・基本的な指導を徹底 ・授業を補完するドリル・補習・補充の見直し ・学習手引きの見直し、家庭学習の強化期間の設定 ・新学習指導要領や小中連携に対応した教育課程編成	○授業研究を通して、教職員の実践意欲の向上と指導法の向上が図れた。結果として、学習内容をノートにまとめたり、発表したりするといった児童の言語活動を高めることができた。 ○加配による複数体制指導により、基礎学力の向上と学級の安定を図ることができた。 △児童の学習意欲や態度を高め、更に学力充実・向上につながる教科指導を実践し、蓄積していく。
生徒指導	「包み込まれているという感覚」や生徒指導の3機能を重視した学校・学級づくりを進める。 ①「共感できる学級」 ②「魅力ある全校活動」	「自他を大切にできる児童」の視点や人間関係を深める指導に力を入れ、児童が求める学習環境づくりを進める。 ・挨拶やよい言葉遣いの励行、生活規律を高める指導 ・道徳・人権教育を重視した取組（東日本大震災支援の取組） ・問題行動や不登校を起こさない指導、教育相談活動の充実 ・ボランティアの活用による読書環境の整備	○「学級づくり指標」をもとに児童の変容を交流し、集会等で評価する取組が定着した。 ○日常的な配慮を要する児童の実態把握と対応が図れた。 ○保護者の協力により生活リズムづくりと読書活動が活性化し、家庭での児童への関わりが増加した。 △主体的な児童の言動や人権意識の高揚が課題である。
健康（体育）・安全	健康で安全な生活ができる児童を育成する。 ①基本的生活習慣と体力づくりの推進 ②安心・安全な環境づくり	・児童の基本的な生活習慣を確立させていくために、元気貯金や朝の体力づくり、食育、性教育の指導に力を入れていく。また、命の大切さを学ぶための掲示や展示を継続していく。 ・交通教室、避難訓練（大地震）や防犯訓練の計画的な実施（ヘルメット着用等保護者への安全啓発活動）	○年3回の元気貯金の取組の設定と関連した保健指導の強化により、家庭での生活習慣が上向きになってきた。 ○小学校駅伝5位入賞。PTAと連携したヘルメット着用の取組が定着した。 ○東日本大震災の体験談を聞く授業、震災を教材にした道徳の授業、避難訓練、見守り隊等の取組を通して、児童の安全意識や命を大切に作る心情等が高まった。 △給食指導・食育に関する取組の工夫が必要である。

研 修（教 職員の資 質向上）	児童に「楽しい学習体験」をさせることをテーマに、授業づくりの研修を進める。 ①教員の実践意欲を高める。 ②授業研究を通して教科指導力の向上を図る。	・読み取りをもとにした国語科の授業づくりの研究を通して児童の言語力・表現力を高める指導に力を入れる。（理論研修・検証実践・成果確認の場の設定と情報発信） ・センター出前講座の活用や初任者研修・授業実践力開発講座等への参加者による伝達講習、その実践方法の波及	○研究授業・公開授業等の検証実践と校内研修を通して、指導法の共通理解が進み、教員の実践意欲や児童の学習意欲、発表時の表現力等が高まってきている。 ○初任者研修や出前講座、伝達講習の設定により、日常的な教員の学び合いが広がってきている。 △重点的な取組を通して、指導課題の解消と教員個々の指導力向上が課題である。
危機管理	教育活動における危機管理意識の向上と未然防止を図る。 ①報告・連絡・相談・確認の徹底による危機の未然防止 ②地域や保護者等との連携	・日々の教育情報処理とその対応方針を確認し、危機管理に対応する流れを機能化していく。 ・教育公務員として、一社会人として、服務規律を守っていく職場環境の確保 ・保護者・地域から教育情報の収集や状況把握、し見守り隊等の交流を通しの的確な対応	○情報の共有を基本に、指導観の共有化を図ろうとする雰囲気醸成されつつある。 △優先順位、報告・連絡・相談・確認といった組織的な教育活動を重視して、事象対応を教訓化していく。 △更なる保護者・地域との連携システムを構築する。
開かれた 学校づく り	安心・安全な学校づくりを進める。 ①保護者・地域の声の活用 ②外部の力の活用 ③外部評価の活用	・児童の適正な就学と保護者の願いを基本に、児童実態の把握をし、丁寧な校内就学指導を実施する。 ・定期的な参観や懇談の実施、日常的な家庭訪問等により、教育活動に関する情報の収集と活用 ・総合学習、クラブ等の指導における地域人材の活用 ・保護者・児童の教育アンケート、民生児童委員・学校評議員・見守り隊・街頭指導ノート等の評価を活用した学校改善	○丁寧な就学指導による保護者の理解が得られた。 ○月2回の学校便りの発行とHPの更新、地域での宿泊体験学習の実施、地域教材の開発等ができた。 ○東日本大震災の体験談を聞く取組、クラブボランティア講師、図書ボランティア、地域の先生の招聘により、教育活動が活性化した。 △地域教材・人材の発掘等を通して、地域の声や力を活用した教育活動を、更に推進していく。
次年度に 向けた 改善の 方向性	児童課題と教師の指導課題を明確にして、PDCAのマネジメントによる学校運営と評価活動を中心とした学校経営に努める。 ・児童の学力向上と教職員の指導力向上につながる教育活動を推進する。（基礎学力・読書、家庭学習や基本的生活習慣の定着） ・自他の思いや考えを伝え合い、児童の人間関係が高まっていく取組を通して、豊かな心の児童を育成する。（学習意欲、人権・規範意識の高揚） ・教育情報の広報等を通して、保護者・地域との連携を更に深め、信頼される開かれた学校づくりを推進していく。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立長岡小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自分の富士山に登ろう」という学校教育目標をスローガンに、勉強、遊び、そして自分に対して具体的目標を持ち、一步一步前進する児童を育てる。		・学習や生活に自分がめざす個別目標が意識されてきた。 ・学習規律が定着し、学力の向上に向けて前進した。 ・組織的な生徒指導の取組が進んだ。	・学年に応じた期間で実現可能な目標設定を持たせる ・個人目標に加えて、学校全体の視点をはっきりさせた全体目標（漢字富士・計算富士・駅伝富士・表現富士・遊び富士）の取組を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・基礎学力の定着を図る。 漢字富士 計算富士 ・学習意欲の喚起と意欲の継続の指導を研究する。 駅伝富士 表現富士 ・図画工作科における自己表現の指導法を研究する。	・算数、国語を中心に確かな基礎学力の定着を図る。 漢字富士 朝ドリル週3回 計算富士 放課後週2回 ・教師自らが教材を十分研究して、ノート指導、補習、家庭学習といった具体的な指導方法を進め授業づくりを行う。 重点研究テーマ「授業づくり」（算数を通して） ・一斉授業における個別指導をできる限り心がける。 ・京丹後市小学生駅伝大会で、優勝めざした取組を計画し、選手だけでなく学校全体の努力目標を持つ。 ・図画工作科の指導を通して、心の感動を外に表現する力を育てる。	○漢字富士では自分の能力に合わせた漢字練習に取り組ませた。その結果、上の学年の漢字を終了した児童や、日本漢字検定を受検者が36名（合格者33名）という具体的な成果が見えた。 ○学力テスト結果は全学年が平均を上まわり、基礎学力の定着につながった。 ○市小学生駅伝大会で第3位を勝ち取ることができた。また、他の児童も校内マラソンで練習及び取組の大きな成果が見られた。 ○自己表現のための基礎的な技法及び技術を身につけることにより、思いや気持ちを表現することができ、全国教育美術展等で多数の入賞が得られた。
生徒指導	・学校に気持ち良く登校し、児童同士の連帯感を強める。 遊び富士	・問題事象についての早い、丁寧な対応に心がける。 ・積極的な生徒指導として、「1人きりにならない」「1人きりにさせない」事をめざして、児童会活動としての異年齢集団の遊びを組織する。	○問題事象については組織としての対応を行い、保護者とともに早期対応、早期解決に心がけた。その結果、後期においては、大きな事象は起きなかった。 ○高学年が集団を組織してリーダー制を発揮し、楽しく遊ぶ姿が見られた。このことは児童の学校生活に心の安定が生まれ、大きな力となった。

健康（体育）・安全	・基本的生活習慣を見直す（早寝とあいさつの励行）	・早寝については、PTA と連携した取組として、学校と家庭で進める。	○児童の早寝について理解と協力が見られた。また、基本的生活習慣全般の見直しと学校での学習意欲にもつながるという理解も得られた。
特別支援教育	・特別支援を要する児童に対して、組織体制を確立する。 ・支援の必要な児童の実態把握を進め、具体的方策を立てる。	・児童の状況について定期的に交流の場を設け、全教職員の共通認識を図る。 ・特別支援学級の活用、スクールサポーターの配置等で、教室及び取り出し指導等で支援をする。	○積極的に授業に参加できない児童、集中できない児童等、いろいろな児童に対する特別支援が組織として対応できた。
研修（教職員の資質向上）	・校内研究会を充実する。 ・自己研修を基本とした授業改善を研修する。	・自己研修中心とする。また、自己研修、グループ研修、全体研修の研修スタイルを確立する。 ・児童にとって心を開くための指導方法及びその授業づくりを研究する。	○自己研修の中で十分な準備ができ、教師自身が意欲的な姿勢で指導できた教材は児童も同様に意欲的に学習することが見えた。 ○全体研修は、模擬授業のスタイルを取り、児童がどんな反応するか、いろいろな場面での対応を考えるなど実践的な研修を行った。 △講師が多かったが、指導に対して学び合う気持ちがあり、よく努力をした。しかし、児童にとってわかりやすい授業を展開するということではまだまだ課題である。
保護者・地域との連携	・地域等との関連行事を通じて、児童の成長を伝達する。	・保護者との連携だけでなく、安全ボランティア、長寿会、緑の少年団、公民館、長岡区等との交流を進める。	○校区が長岡区だけというメリットを生かし、伝統的で親密な行事及び交流ができた。特に、児童の発表の機会に表現の姿を地域の方々に伝えることができた。 ○出来上がっている関係をより充実させるために、児童と地域の方々が直接触れ合える取組を取り入れ、今一歩進めていくことができた。 △「総合的な学習の時間」の指導ではもっと地域に目を向け、地域の方々から学ぶ機会を増やしていきたい。
次年度に向けた改善の方向性	・児童に対して基礎学力の確実な定着に向けて、日常の授業改善として「授業づくり」を研究する。そのため、引き続き講師を含む教師の指導力の向上を目指す必要がある。 ・特別支援教育について、本年度は組織体制という面で成果を見た。その上で、特別支援教育の充実を図り、支援を必要とする児童に対するていねいな指導を進める。 ・地域との連携（児童・学校と地域との直接的な触れ合い）をより一層進める。そのために、児童も教職員ももっと地域に出て、日常的な交流を進めていきたい。		

(別紙様式1)

平成23年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮第一小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学習の楽しさを実感し、確かな学力を定着させるために全教職員が参画する学校教育を推し進めていく。(教育プランの実現)		○全教育課程に「学習・約束・仲間」を位置づけ、落ち着いた学習環境を作り上げた。 △診断テスト(府)の平均以上の学力を定着させる。	(1)基礎基本が身についていると実感出来る授業 (2)一人一人が安心して「話せる」と実感出来る学級 (3)安全な教育環境に取り組んでいく学校
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	(1)学習内容を定着させる。 きめ細やかな指導(個に応じた指導)を進める。 (2)活用していく力を付ける。 自然や科学に興味を持たせ、気付いた課題を解決していく指導方法の工夫改善を行う。 (3)学習意欲を高める。 全校的な表現力を高める。	学年会を中心にした日常的な共通化と実践化を図る。 (1)算数科における京都式少人数指導(6年は習熟度別編成) ・課題領域の克服(経年評価を活かした回復指導) (2)理科教育の充実(魅力開発校として) ・少人数指導TT加配を活用した質の高い授業づくりと全教職員による事前研究・教材作り (3)音楽教育の充実 ・19学級以上における加配の活用(音楽) ・歌唱練習の系統的な指導と発表(歌声の聞こえる学級)	○学年主任を核にした「学年の共通した指導」が図れた。 ・毎朝毎週金曜日に学年会を位置づけ連携を図れた。 ○6年生の習熟度別学習グループ編成により、基礎基本の学力を高めた。(特に正答率50%未満の減少) ○実験を中心に指導方法の工夫により、知識・理解力を高めた。実験のまとめから活用していく力も伸びてきた。 ○全校音楽も定着させ、歌唱力も向上した。 △更なる基礎学力の定着と平均点の向上をめざす。 △「書く、まとめる」等、基礎的な力を付ける。
生徒指導	(1)楽しく学べる人間関係を築く。 ・学習規律や規範意識を高める取組と連動していく (2)弱い立場の子どもが生き生きと学習や生活を送る学校にしていく。 ・特に不登校傾向や家庭的に恵まれない子どもに寄り添う。	全校的な規範意識を高める。 (1)日常的な「約束」を意味づけていく取組を進める。 ・一人一人が大切にしていける約束(話の聞き方、忘れ物等) ・仲間で大切にしていける約束(あいさつ、名前の呼び方等) ・学校で大切にしていける約束(廊下を走らない、ゴミ等) (2)居場所のある取組を進める。 ・日々の欠席状況を把握する。 ・常に学級における人間関係を見て行く。 ・関係機関(市の子ども未来会等)と連携を図る。 (3)教育相談部と連携した取組にしていく。 ・チームで取り組んでいく。	○校内外の「約束」で、つながり合う児童の姿が見られるようになってきた。特に、登校の仕方や挨拶はよくなった。 ○不登校傾向の児童に対する適切な対応が来ている。特に、児童の実態から導きだした方針のもとで取組が出来た。結果として不登校傾向の児童が減少してきた。 ○人権・教育相談・特別支援等の部会と連携し、早期発見継続的な指導支援を進めてきた。 △中学校へのスムーズな接続を行うために、日常的な情報交換や個々の課題の共有を図る必要がある。

健康（体育）・安全	(1)安全・安心な学校にしてい ・豊かな食生活と生活リズムの定着をめざす。 ・事故防止に努める。 (2)家庭・地域と連携した取組を進める。 ・非常災害時における児童の安全確保の仕方を考える。	健全な心と体を育てる。（家庭と連携した） (1)食生活（文化）の意識化を図る。 ・給食献立表を活用した家庭での献立や食文化の由来について知らせる。 (2)保健室の来室者を減らす。 ・廊下歩行（室内）一旦停止（校外）の取組を継続的に取り組んでいく。 (3)付添登校等で保護者と一緒になった非常時の対応を行う。	○食事のマナーが良くなり、時間内に給食を終える児童が増えてきた。また、学校公開（秋）にも給食参観を取り入れ児童の様子を共有する事が出来た。 ○保健室来室者が昨年度比－１８％の状況になってきた。救急車で搬送も激減した。 △保護者との災害時（地震と不審者）における基本的な動きを確認し、次年度のマニュアル作りに活かす
開かれた学校づくり	(1)教育プランに掲げた第二目標「地域と共に育つ学校」の実現に努める。 (2)学校公開を行う。 ・学校行事では味わえない学校のよさや子どもの頑張りを紹介する、	大切に育てられていると実感出来る教育環境を作る。 (1)学校支援活動の輪を広げる。 ・毎週木曜日の「図書ボランティア」による読み聞かせや本の修理等の協力を得る。 (2)保護者・地域の方々となつがる学校づくりを進める。 ・学校公開による、本校の教育活動の特徴（理科教育、給食指導、全校音楽等）を紹介する。	○学校ボランティアの輪が広がり、「図書」「農業」「安全」等の取組が充実向上してきた。 ○学校行事とは異なる「学校公開」には、地域の方々も参観されるようになった。参加者の声から新たなつながりが生まれている。（食に関する事、地方自治に関する事） △更なるPTA活動との連携を充実させ、若い保護者の参加を増やしていく必要がある。
特別支援教育	(1)通常学級における「特別支援教育」の定着を図る。 (2)計画的に就学指導を行う。（教育相談活動との連携）	弱い立場の児童が生き生きと学習する取組を充実させる。 (1)個々のデータを積み上げ、連続した指導支援を行う。 ・個別指導計画の共通化と活動の記録を丁寧に付ける。 (2)校内の就学指導委員会による客観的な資料に基づく判断と心の通じる就学指導を行う。	○個別的な学習状況を把握していくシステムのもとで、全学級による個別指導の充実と指導支援結果を共有する事が出来た。 △入学児童の様子を的確に把握し、関係機関との連携のもとに就学指導を行う。
職員の研修	(1)授業開発（魅力開発校）を通じた指導方法の工夫改善を図る (2)学年会を研修の場に高めていく。（若い教師を鍛える場）	(1)児童の基礎学力が向上していく授業・指導力を工夫改善する。（生活科・理科の事前研究・公開授業・事後のグループによる研修の積み上げ等） (2)授業や行事のねらいと指導方法の共通化を図る。	○研修スタイルの共通化が図られ、授業を見ていく視点やまとめの観点が明確になってきた。結果として授業の指導方法も目的のはっきりした授業になってきた。 △校内での具体的な授業づくりの研修が、更に必要である。
次年度に向けた改善の方向性	(1)「教育プラン」の実現を図るために、学校だけではなく、広く「コミュニティ」の視点を持って、その具現化を図っていく必要がある。 ・中学校区との連携も図りながら、保幼小中の一貫した教育を推進していく。 (2)児童課題と指導課題の一体化を図った「学習・約束・仲間」を全教育課程と授業づくりや学級経営等とも連動させた取組にしていく必要がある。 ・児童の学力課題と教師の指導力向上につながる経営構想のもとで進めていく。 (3)命の尊厳を基本にした「安全・安心の教育」を保護者や地域と連携して取り組んで行く必要がある。 ・更に「校内外の約束」の必要性を意識し行動に示せる指導支援を行う。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立大宮第二小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
かしこく やさしく たくましく ～自分で考え、行動できる児童の育成～		・読み・書き・計算する力の伸長が図れた。 ・課題解決的な学習の充実を図り「考える力」を育成する。 ・「他律」的な生活規律や言動を、「自律」的なものに高める。 ・授業実践力・学級経営力・保護者対応力を向上させる。	①主体的な学び、確かな学力を身につけた児童の育成 ②自ら、友だちの気持ちを思いやれる児童の育成 ③自ら、挑戦する健康でたくましい心と体の育成 ④教職員の学級経営力・授業実践力の向上
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・読み・書き・計算力を正確に身につけさせ、自信を持たせる。 ・課題解決的な学習の充実を図り、「考える力」を育成する。 ・言語活動を充実させる。 ・家庭学習を習慣化させる。	・計算・漢字・読書等を繰り返し指導することで、「分かる」「できる」喜びを積み上げ、学習意欲を向上させる。 ・「学び方」「学び合い方」を指導し「考える力」を育成する。 ・学習規律（聞き方や発言の仕方等）を徹底させ、学び合えるようにする。 ・言語活動の第一歩として、考えを書くことに慣れさせる。 ・「家庭学習頑張り週間」を学期に1～2回実施し、宿題だけでなく自主的な家庭学習を習慣化させるきっかけとする。	○繰り返し学習により、自信を持って意欲的に取り組めた。 ○国語科の研究により、自ら考え、発言する児童が増えた。 ○家庭との連携により家庭学習は全校児童に定着した。 ○「頑張り週間」期間中には、低学年で約6割、高学年で約9割の児童が工夫した自主学習をするようになった。 △まとめテストでは全国平均点を上回ったが、習得した事を活用する力と、最後まで粘り強く考える力に課題が残る。 △各教科・領域における言語活動の充実を図る必要がある。
生徒指導	・友だちを思いやり、つながり合える人間関係力の向上を図る。 ・自尊感情を高めさせ、やる気を引き出す。 ・生活規律の向上を図る。	・意図的な作文紹介により、友だちのよさを認め合わせる。 ・学級での遊びや班・係活動、全校での異年齢活動等を通して、人間関係力を高める。 ・個々の良さや努力を認め、自尊感情を高めるとともに、「いつも周囲に見守られている」という安心感を与える。 ・学校生活のルールやマナーを守る大切さに気付かせる。	○作文紹介の取組は、児童の相互理解に繋がった。 ○外遊びを意図的に仕組み、ルールを守る大切さを体得したり、相手の気持ちを考えたりできる児童が増えた。 ○授業や行事で児童個々の良さを認めたことが、自尊感情を高めることに繋がり、落ち着いた学校生活となった。 △さらに、自分も人も大切に作る心を育てる必要がある。
健康（体育）・安全	・体に関する科学的な認識を育てる。 ・健康な生活を自分でつくる。（早寝・早起き・朝ご飯）・たくましい体を作る。（体力づくり・給食） ・人と自分の安全を守る。	・「ほけんだより」による保健指導や、食に関する指導、生活点検の取組等により、運動や栄養・睡眠が体に大切なものであることを指導する。 ・目標を設定し、マラソン・縄跳びで体力づくりをさせる。 ・「大宮第二小のやくそく」の指導を繰り返し行い浸透させる。 ・登下校・廊下歩行を含めて、安全な学校生活を送るための危険予知能力を養い、人と自分の安全を守る意識を高める。	○栄養や食事マナーを意識する児童が増え、9割以上の児童が時間内に完食できるようになった。残食がなくなった。 ○目標を持ってマラソンに取り組み、体力アップに繋がった。 ○「大宮第二小のやくそく」を随時見直し、毎学期の初めに指導したことにより、大きな怪我や事故はなかった。 ○児童会と連携した取組により、廊下を走る児童が激った。 △就寝時刻の遅い児童への個別指導が必要である。 △安全確保の為、今後も丁寧な下校指導が必要である。

開かれた学校づくり	・家庭・地域の学校理解の深化を図る。 ・児童課題を、家庭・学校で共通理解し、解決を図る。	・「ホームページ」を月に1～2回は更新し、教育活動の様子や予定を広報し、地域の理解を得る。 ・授業参観・学校行事等を公開し、教育活動について理解を得る。 ・「学校だより」「学級だより」により、児童課題や取組状況、肯定的な変容を随時知らせ、保護者からの協力体制を得るようにする。 ・実技的な分野に関しては、地域ボランティアの活用を図ることで、児童の技能力アップと教員の指導力向上に努める。（持久走指導・書道指導・算盤指導）	○HPでは教育方針や理念、及び日頃の教育活動や連絡を月4～5回発信し、地域の理解を図ることができた。 ○授業や行事等の参観や日頃の児童の様子から、学校運営について約85%の保護者から肯定的な評価をもらった。 ○学校同様に、よいところを褒める保護者が増え「子どもを包み込む教育」が家庭においても浸透しつつある。 ○地域人材や支援ボランティアを有効に活用し、児童の意欲や技能が向上した。教員の指導力向上にもつながった。 △家庭におけるゲーム・テレビ視聴時間が課題となったので、今後、家庭と協力して縮減指導をする必要がある。 △「学校で付ける力」「家庭で付ける力」を学校・家庭で共通理解し、具体的に分担する必要がある。 △肯定的な変容を積極的に家庭に知らせる必要がある。
危機管理	・報告・連絡・相談を怠らない。 ・何事にも早期発見・早期対応に努める。 ・情報の伝達と初期対応の迅速化を図る。	・報・連・相・確認を徹底し、情報把握と迅速な対応を図る。 ・保護者・地域の方・来校者への丁寧な対応に心がける。 ・保護者の意見は真摯に受け止め、迅速かつ丁寧な対応に努める。 ・新聞等の事例を紹介し、危機意識を一層高める。	○タイムリーな報・連・相・確認で、諸事案に対応できた。 ○保護者・地域の方の情報や協力を得て、迅速な対応をしたことで、大きな問題や苦情はなかった。 ○先手の生徒指導をしたこと、児童が落ち着いていたことにより大きな怪我や事故はなかった。（受診は年間6件） △自然災害に迅速に対応できるマニュアルの見直しが必要である。
職員研修	・教職員評価を活用し、やる気を出させる。 ・授業実践力・学級経営力の向上を図る。 ・保護者対応力の向上を図る。	・教職員評価の自己目標に向かって努力する過程を認めることで、教員のモチベーションを上げる。 ・教育実践モデル校としての国語科研究の充実を図る中で、授業づくりだけでなく、学級づくりについて学び合える教職員集団とする。 ・担任は保護者に、的確に児童課題や肯定的な変容を伝え、協力してもらえ人間関係を構築させる。	○教職員評価や面談、三者からの肯定的な評価により、各自が目標に向かって意欲的に教育実践に取り組めた。 ○国語科研究により学習指導法を身に付けることができた。 ○10月の授業づくり・学級づくり月間の取組や、職員室での日常会話により、学級経営について互いに学び合えた。 △児童課題を的確に伝え、家庭の協力を得ることができるよう、今後も丁寧な保護者対応をする必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	○「読み・書き・計算」力の繰り返し指導を一層高め、それを活用する力を付ける。 ○課題解決的な学習の充実を図ることで考える楽しさを体得させ、さらに学習意欲を向上させる。 ○何事にも粘り強く、最後まであきらめずに取り組める「たくましい心と体」を育てる。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮第三小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
一人一人が輝く <u>第三小</u> ならではの学校づくり 《三小魂「実直」「礼儀」「チャレンジ精神」》 (1) 児童一人一人の学力を向上させる。 (2) ことばの力をはぐくみ、人とつながる力をはぐくむ。 (3) 地域学習から自然を守り、よりよい地域づくりに貢献する。 (4) 家庭・地域に愛される学校にする。		○国語科を中心に「三小プラン」に沿った授業づくりに全校体制で取り組み、読み取る力を向上させることができた。 ○児童が考えを出し合ったり、ノート指導を大事にしたりしたことで、書くことに積極性が見られるようになった。 △児童の基礎基本の力、表現力、思考力の向上 △児童の自主・自立をはぐくむ生徒指導と特別活動 △学校外への積極的な挑戦	(1) 基礎基本の定着・活用力・学ぶ意欲をつける。 (2) 家庭との連携で家庭学習を定着させる。 (3) いじめや仲間外れの無い学級・学校をつくる。 (4) 児童会活動を中心に児童の自主性を育てる。 (5) 局指定魅力開発校「古典に学ぶ古典の学校」の研究実践を発信する。(研究発表会等)
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
育課程 学習指導	1 質の高い学力をはぐくむ。 ・基礎基本の定着 ・活用する力の育成 ・学習意欲の充実 ・家庭学習の習慣化 2 古典・短歌の魅力に迫り、主体的に思いを伝え合う授業づくりを研究する。 〈新学習指導要領「古典教材」への対応〉	1 児童が学ぶ楽しさがわかり、意欲的に学習する授業づくり ・古典に興味関心がもてるような出会いを大切にした授業 2 基礎基本の力を定着させる。 ・一時間のめあてと振り返りを大切にした授業の実践化 ・自分の考えをまとめるノート指導の充実、展示(参観日) ・基礎基本を定着させるための全校的な取組 漢字まとめテスト・スキル学習・放課後補充学習の実施 3 国語科「古典・短歌」を中心とした授業研究・実践 ・教科書教材(俳句、短歌、百人一首)の研究 ・全校短歌づくり、百人一首大会の取組を通してことばの世界を広げる指導方法の研究、実践 4 ことばで人との関わり合いを広げ、表現力を育成する。 ・全校暗唱(百人一首)、学年発表、感想交流会の実施 ・確かに読み、自分の考えを自分の言葉で話し、伝える力をつける。	○児童が古典にかかわった日本の伝統文化に触れ、感動を味わい、学ぶ楽しさを体感している。短歌づくりなどでことばからイメージを広げ、児童が古典のおもしろさを体感し、表現して学習している。(狂言・平家物語等) ○ノート・まとめミニ新聞等書くことをいとわない児童の状況を研修・全校ノート展示で把握することができた。授業がわかりやすい93%、宿題をする98%と児童が回答している。意欲的に学習する児童が多い。 ○話し合い、互いの意見を批評しあったりして、いろいろな授業形態にチャレンジさせることができた。 ○高学年を中心に、自分で5行程度の文を考えて、あいさつ等ができるようになった児童が多い。 △基礎・基本となる漢字・言葉のきまり、読解力をさらに確実に定着させることができる授業づくりの工夫改善 △更に伝え合う力、相手を意識したよりわかりやすい文章を書く力、発表する力など継続して表現活動や活用力を意識した学習展開の工夫に努める。

生徒指導	1 児童一人一人に居場所がある学校づくり 2 規範意識を高め、楽しい学校生活を送るために、ルールやマナーを行動に表せる児童を育てる。 3 児童会活動を中心に自主性を育て、学校が楽しいと思える児童を育てる。	1 人権教育部を中心に仲間はずれのない学校をつくる。 ・教職員の人権意識を向上するために、教職員研修会の実施 ・年2回の人権旬間の取組、人権アンケートの実施 2 生徒指導部を中心とした規範意識を高める取組を行う。 ・月目標を設定して、みんなが気持ちよく、楽しく過ごせるような取組を児童会と連携して行う。 ・あいさつや敬語、礼儀を大切にしたい指導の展開 3 特別活動部を中心に児童会活動を通して、児童の自主性をはぐくむ。児童の発想を大事に指導する。 ・運動会、仲良しフェスタ、百人一首大会、縄跳び大会の開催及び全校遊びの定例化	○学校が楽しい 95%、学級でいじめやいやがらせがないように取り組んでいる 92%回答や日常の状況から、全体的に児童の居場所がある学校づくりが進んできている。 ○月目標を設定し、元気よく挨拶や返事ができるようになってきている。「自分からあいさつをしている」という児童回答 98%の状況を今後も継続していく。 ○児童会異年齢集団活動の継続により、幅広い人間関係をもてるように取り組み、児童も達成感をもっている。 △更に児童の気付きをもとに問題解決できる力をつける。 △支援を要する児童へ保護者と連携した指導・支援の継続
健康（体育）・安全	1 運動能力の向上を図る。 2 自己健康管理ができる児童を育て、欠席日数を減らす。	1 年間を通した体力づくりの継続（朝マラソン・縄跳び等） 2 家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図る。 ・早寝・早起き・朝ご飯の取組 ・肥満児童への組織的・計画的な指導	○欠席延べ日数が昨年度と比べて6割減となり、欠席0の日がほぼ 140 日を達成し、自己健康管理する意識が高まってきている。保護者の協力も得ることができた。 △更に、よりよい生活習慣づくりを進めていく。
開かれた学校づくり	地域人材の力をかりて、感動体験をもとにして、人とつながり、地域を愛する心を育てる。	1 古典の学びや総合的な学習において地域の人的な活用を図る。 2 大宮第三小学校区セーフティーネットの取組の充実 ネット会議の開催・たよりの発行の継続による啓発	○児童に、地域の方の協力を得て、古典の魅力に触れ、農業体験から感動と感謝する心をもたせることができた。 ○ネット会議の開催やたよりの発行で、登下校の安全確保について地域の理解や協力を得ることができた。 △継続して「ふるさと学習」や児童の安全確保に取り組む。
教職員の資質向上	教員の資質能力・授業力の向上を図る。	1 重点研究（国語科）を中心とした校内研修を行う。 2 放課後の職員室を研修の場とする意識を育てる。	○俳句・短歌、説明文、絵画、版画等について、全校体制で互いに学び合い、児童の指導に活かすことができた。
特色ある学校づくり	「小町の里」として古典に学ぶ研究を進め、発信する。	1 古典の魅力開発校として「研究発表会」の開催 2 児童会による「カルタ大会（大宮町カルタ・百人一首）」を実施し、遊びを通して古典に親しむ。	○児童全員が短歌をつくり応募、研究発表会、百人一首の暗唱、百人一首大会により古典の魅力を体感できた。 △今後も、児童が楽しみながら、古典に親しむことを大事にし、継続して指導していく。
次年度に向けた改善の方向性	◎基礎・基本となる漢字・言葉のきまり、読解力をさらに確実に定着させることができるような授業の工夫改善を行う。 ◎更に伝え合う力、相手を意識したよりわかりやすい文章を書く力、発表する力など継続して表現活動や活用力を意識した学習展開の工夫に努める。 ◎古典に親しむことを大事にした指導やよりよい生活習慣づくりと相まった体力づくりを継続して指導していく。 ◎「ふるさと学習〔本校の地域財産（ブナ林・小町の里・実栗ビオトープ池・文化の森）、地域文化（児童会主催の大宮町カルタ・百人一首大会）、地域連携（農作業体験）〕」を大事にした「大宮第三小ならではの」の教育を推進する。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立網野北小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
『 やさしく、かしこく、たくましく 』 《目指す学校の姿》 1 自分も友達も大切にし、元気に挨拶・言葉が行き交う学校 2 分かる授業を大切に、一人一人の良さが認められる学校 3 家庭や地域と連携し、地域に愛される学校 《目指す児童の姿》 あ 明るくかしこい子 あ みんな仲のよい子 き きたえる子 ち たくましい子 《目指す教師の姿》 1 子どもを大好きになる教師 2 自分を、同僚を、組織を大切にする教師 3 常に探究する教師 を目指した学校経営を進める。		【成果】 1 児童へのアンケート結果からも96% (280人)の児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答しており、学校生活への満足度は極めて高い。児童同士の良好な人間関係づくりを通して安定した学級経営となっている。 2 学力面では、近年の算数科における授業改善の取組の成果が徐々に成果として現れている。 【課題】 1 集団的には落ち着いた状況になっているが個別課題が大変大きい。 2 学力面では、府基礎学力診断テストにおいて、 ・4年…国語：「書く」「言語」、算数：「表現」、「数と計算」「図形」に課題 ・6年…国語：「言語」、算数：「図形」領域に課題	1 教師と児童及び児童同士の良好な関係が築ける教育活動を行う。 2 各学年で学習すべき内容の着実な定着により学年間の円滑な接続を行う。 3 各教科、道徳、特別活動等を通して、社会生活に必要な規範意識を高める。 4 健康や安全に対する意識を高め、心身ともにたくましい児童を育成する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 新学習指導要領全面実施による教育課程の編成について、実施の効果と検証・改善をこまめに行う。	1 新学習指導要領完全実施を踏まえ、各学年で学習すべき内容の確実な定着を図り、学年間の円滑な接続を行う。 2 とりわけ、算数科指導において「かく活動」にこだわった表現力の育成を研究推進していく中で、他教科、学級経営等につなげられるようにしていく。	○ 新学習指導要領の趣旨をふまえ、指導時間の確保と授業改善に努めるとともに、児童と向き合う時間の確保に努めることができた。 △ 日々の授業の在り方や“教科書を使って教える”の視点を大切にしながら、授業改善を更に進めていく必要がある。
生徒指導	1 児童同士の良好な関係が築ける教育活動の推進と規範意識の高揚を図る。 2 学級経営の充実を基盤として、特別活動等全校的な活動につなげ、児童の人間として調和のとれた育成を目指す。	1 互いの違いや良さを認めあえる学級づくりを行う。 2 異年齢集団による遊びや行事の取組を通して良好な人間関係の形成と規範意識を高める。 3 PTAや地域と連携し、あいさつ、交通マナーの向上を図る。	○ 学級担任が学級経営に集中できる環境づくりに努めることができた。とりわけ、「授業づくり・学級づくり月間」を6月、9月、1月に集中的に仕組むことにより、学級の安定化につながった。また、異年齢集団による取組を生徒指導と連携する中で効果的に重ねることができた。 △ 個々の課題を集団指導の中に如何に組み入れていくか、研究が必要である。

健康（体育）・安全	1 グランド芝生化における健康安全面の効果検証を行う。 2 防災安全教育の充実を図る。	1 グランド芝生化の検証を行うとともに、芝生の環境整備に努める。 2 地震・津波に対する避難訓練を計画的かつ継続的に実施する。	○ 芝生化により、子どもの遊びの質が変わってきている。（外遊びの増加・心の面でも大きな影響） ○ 地震・津波における避難訓練を学期1回連続的に行うことができた。（網野中学校との合同訓練等） △ 芝生の維持管理に多くの労力を要する。 △ 二次避難の在り方、地域・PTAとの連携の下での総合的な避難の在り方を検討していく。
特別支援教育	1 特別支援教育の理解 2 児童の場と時に応じた対応力の育成を進める。	1 発達等に課題のある児童及び保護者への教育相談活動を充実させる。 2 発達障害の子を取り込んだ学級づくりとともに、日々の授業を工夫する。	○ 学校と保護者とが同じ視点で取り組めるように担任（学校）と保護者との関係強化に努める中で、安定した学校生活となっている。 △ 理解が得られない一部保護者には、今後も粘り強い対応が必要である。
特色ある学校づくり	1 義務教育9年間を見据えた教育活動の充実を図る。	1 少人数学級、少人数授業・TTの有効活用を進め、小学校における学力の基盤を充実させる。 2 網野中学校との小中連携を充実し、教育指導を連続的なものにしていく。（小中連携加配による授業を軸に推進） 3 とりわけ、理科教育を中心とした教科指導の在り方、規範意識を高める生徒指導、心と体の指導の充実に資する。	○ 少人数加配等の活用を進め、学力充実につながった。 ○ 算数授業の共同研究（網中数学教員の授業事前研・事後研複数参加）により、指導観の違い等課題解決に向けて共通化が図られ、今後を見据えた小中学力接続への基盤ができた。 ○ プラスワンスタディ事業を継続的に行うことにより、高等学校との連携の道筋もつけられた。
研究推進・教員の資質向上	1 算数科教育を重点として授業力の向上を進める。	1 単元指導を工夫し、学力の定着・向上に効果のある指導方法を蓄積する。 2 少人数指導担当教師を中心として、少人数指導の充実を進める。 3 研究・実践の成果と基礎学力診断テスト等の結果とが一致する方向を目指す。	○ 低・中・高学年で「かく」ことについて、意義やめざす力の系統性をまとめることができた。 ○ 全ての教員が重点研究推進に積極的にかかわれるように、事前・事後研を工夫し、運営することができた。 ○ 学期1度の「授業づくり・学級づくり月間」を焦点化（6月・9月・1月）し、授業づくりにこだわり、結果として人材育成につなげることができた。
次年度に向けた改善の方向性	1 学級経営を一番の基盤とし、互いの違いや良さを認めあえる学級、仲間外れやいじめのない学級や学校づくりを一層進める。 2 研究・実践と児童の学力の定着・向上とを一体として捉えた研究活動を推進する。 3 幼保・小中学校のスムーズな接続を図るために、幼保育児の実態把握、児童・生徒の行動連携を軸に連携を強化していく。 4 PTA、地域との協力を得ながら、挨拶の励行、交通マナーの向上を図る。 5 運動場の芝生の維持管理に向けて、行政、学校、保護者、社会体育団体等とより一層連携を推進していく。		

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立網野南小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標「心やさしく 進んで学び きらり輝く子の育成」の実現に向け、組織的・協働的な教育実践を行う。		○集団的なまとまりができてきて、全校集会等静かに速やかに集合できる。 ○教職員の統一した指導により、児童の規範意識も徐々に高まり、当たり前のことが当たり前になるようになってきた。 △学力の充実向上を課題として取り組んだが、学年や個々の差が大きい。	1 「進んで学習し、考える力」の更なる育成を図る 2 「場に応じて、自分で考え活動する力」の育成 3 「友達を思いやり、仲よくする力」の更なる育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	①主体的な学習となるように学習の仕方を学ばせ、集中しあった学び合いの授業を高めていく。 ②学習集団としての学級の質を高める。 ③学習の基礎となることについては学習の手引を基に指導を繰り返す。	・授業研を通し、「内容理解」「学び方」「学び合い」の3目標を意識した授業を進める。 ・毎時間における「学び方」「学び合い」のスキルを積み重ねる。 ・話をしている方を見て聞き、自分の意見・思いを相手を意識して発表させる。 ・毎時間の授業で規律を持って取り組ませる。 ・読書活動、パソコン操作の継続と充実を図る。	○一人学びを生かした学習スタイルがどの学級も確立し、授業中の発言につながり、事前に考えて話し合いに臨むなどの力がついてきた。 ○子ども同士のかかわりが深まり、学級の雰囲気が高まってきた。 ○「家庭頑張り週間」を設け、学習の手引のめあてに沿った取組ができ、子どもたちも意識して取り組めた。 △学級によっては、個別の児童課題もあり学級のまとまりという点で弱い部分もある。
生徒指導	①学級づくりを基礎にして、意欲的、自律的で一体感のある全校集団を育成する。 ②課題解決の過程を大切にしたら教師・児童が信頼し合う所属感ある学級づくりを追求する。	・今何をするときなのかを意識させ、場に応じて自ら考えることを積み重ねる。 ・日々のランチルーム給食、全校集会の場を大切にする。 ・生活を豊かにする係りや、生活しやすくする当番活動を工夫し、楽しい学校生活が進むようにする。	○全校での取組には素早く集まり、静かに聞けるようになってきた。 ○大きな行事に年間を通して計画的に取り組み指導を入れることで、高学年のリーダー性、低学年の組織の一員としての意識が育ってきた。 ○肯定的評価を繰り返し行うことで、子どもたちが自信を持って行動することができてきた。 △自分自身に対する振り返りが弱く、課題が捉えられない児童がいる。

健康（体育）・安全	①健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質や能力を育成し、心身の調和的な発達を図る。 ②家庭や地域社会と連携を図りながら、適切な健康安全に関する活動の実践を促す。	・心身の健康と基本的な生活習慣の確立(健康観察等) ・健康増進活動の充実（歯、目の健康 風邪の予防等） ・性 エイズに関する指導 ・薬物乱用防止に関する指導 ・避難訓練の実施(火災、台風、地震想定)と経路の確認 ・交通教室とヘルメット着用の指導(保護者との連携) ・校内安全点検、通学路安全点検 ・校内事故の教材化とその活用	○年間活動計画に沿って健康教育、安全教育の取組ができ、健康に関する意識の向上が図れた。 ○生活点検を2回行い、家庭学習の確立と同時に行ったので、生活と学習をまとめて意識できる習慣となった。 ○保護者とも連携をし、4月からヘルメット完全着用で進めることができた。 △警報発令時における保護者との連絡方法が課題である。
特別支援教育	障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じ、障害に基づく種々の困難の改善・克服を図りながら個性や能力の伸長に努め、心豊かでたくましく生きる力を養う。	・一人ひとりの子どもの発達の様子、課題を明らかにし、それに基づく教育課程を編成し、個々の子どもがたくましく生きるための基礎的な力を育てる。 ・特別支援学級や配慮を要する児童の実態について共通理解し、研修を深める。 ・特別支援学級や通級指導教室等について正しい理解と認識を育てるとともに、交流学习を進める。	○特別に支援（配慮）を要する児童についての共通理解を度々行い、教職員が同じ方向で指導できるよう意識化を図り、児童が安定してきた。 ○発達障害、教育相談の事例研修を行い、個に応じた支援について理解を深めることができた。 ○定期的に保護者との面談をもち、連携が図られている。 △学力を積み上げていくことがむずかしい子への手立てが不十分であった。
研修(資質向上の取組)	①国語科を中心に学び方を明確にし、一人一人の発達に応じた授業研究を通して、学力の向上と、教員の指導力の向上を図る。 ②学力、教育相談等については共通理解を深めるため、事例に基づいた研修を行う。	・重点研究については3つの部を構成し研究推進を行う。 ・授業研究部では「読む力」「学習集団」についての研究、学力充実部では「授業を支える活動」「家庭との連携」「授業改善」の研究、保幼小中連携部では「生きる力の育成」「継続に関して」の研究を深める。 ・教育相談については「定例会」と担任を含む「ケース部会」を持つ。 ・校内の事例を通した校内研究会を持つ。	○3つの部が精力的に研究を進め、ねらいに沿った研究成果を上げ、学力の向上に向けて、学習規律、学習集団の向上が確認できた。 ○スクールカウンセラーや中学校の教員の参加を得、事例研究会を持つことによって課題が共有化でき、小学校での指導の在り方を考え直すことができた。 ○毎月児童の情報を交流し、全教職員で共通理解が図れた。
開かれた学校づくり	①学校の様子を保護者や外部に積極的に発信する。 ②関係機関、保護者・地域との連携を大切に進める。	・情報の発信を積極的に行う。（学校だより、学級通信、ホームページの更新等） ・授業参観（行事の参観）・学級懇談会の実施 ・評価アンケートの実施 ・児童の安心・安全の取組 ・地域の関係機関（区、公民館、民生児童委員会等）との連携	○民生児童委員、学校評議員の方にも配布や参観の案内をし、学校の状況を知ってもらえた。 ○学校の教育活動について保護者や関係機関から意見を聞き、改善に役立てることができた。 ○安心・安全の取組としてヘルメット着用の取組を開始し、次年度からは全員着用の方向で進んでいる。
次年度に向けた改善の方向性	○ 保・幼・小・中のつながりを視点に持ち、生き生きとした教育活動を展開する。 1 主体的な学びと学習集団としての学級の質を高める。そのために研修の充実を図り授業力の向上を目指す。 2 一人ひとりを大切にした授業、学級経営に努める。そのために特別支援教育、生徒指導等の指導力の向上をめざす。 3 学校、家庭、地域社会とのつながりを大切にする。そのために情報の発信、共有化を図り、安心・安全な学校づくりを行う。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「郷土を愛し、自然とふれあい、かしこく、心豊かで、たくましい児童の育成」 生き生きと学び、いつでもどこでも児童が輝く『楽しい学校』を目指す。 1 自然に働きかけ、自分の考えをもち、関わり合って学ぶ力の育成(確かな学力) 2 良さを認め、良さでつながる子どもの育成(豊かな心) 3 きびきび生き生き活動できる力の育成(健康な体)		【成果】 1 理科の研究を進める中で、組織的に教材研究を進めていく基盤ができた。他の教科でも研究の進め方が生かされた。 2 朝の体力づくりや朝読書・給食・掃除など、全校的な活動を意識した動きが作れてきた。 【課題】 1 島小ルール(授業規律等)の徹底を更に進める。 2 学習意欲を高めるための指導の研究を、さらに進める。 3 研究発表会に向けて理科の実践を深めていく。	1 「学ぶ力」の育成 学習規律や家庭学習を確立し、生き生きと学ぶ児童を育て、授業の充実を目指す。基礎学力の充実を図る。また、理科研究を充実し、研究発表会を成功させる。 2 「豊かな心」の育成 心の教育を推進し、生徒指導、人権教育、道徳教育、教育相談活動の充実を図る。 3 「健康な体」の育成 日常活動をきびきび、生き生きとやりきる指導を続ける。児童の活動を活発にし、達成感を持つ。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	・教科書研究を進め、充実した指導計画を目指す。 ・基礎・基本の徹底を図り、学力を向上させる。 ・学習環境を充実させる。	・週予定で進行管理する。新しい教材の研究を進める。 ・読書タイム、チャレンジタイム、放課後補習の充実を図る。 ・診断テスト結果を基にした指導の充実を図る。 ・学び合いを大切にした学習集団の育成を図る。 (多様な学習集団の研究授業を全学年で実施)	○新単元にシールを張り課題を意識した指導ができた。 ○家庭学習ががんばり週間や忘れ物ゼロ週間の実施で、児童や保護者の、学習への意識が向上した。 ○学習支援ボランティアの支援を受けて、放課後補習学習を計画的に進める事ができた。 ○テスト分析を基に課題単元の再指導ができた。 △「島小ルール」(学習規律)の徹底と自ら学ぶ児童の育成を更に進める。 △耐震工事の関係で、学習環境を向上出来なかった
生徒指導	・心の教育を充実させる。 ・児童が主体的に活動する学校を目指した、生徒指導の取組を進める。 ・躍動感のある全校活動を作っていく。	・定例部会を開催し、常に課題整理を行い具体的な指導を推進する。 ・「輝く児童」「楽しい学校」をイメージした取組を進める。 (各活動の目標に、常に位置づけ評価していく) ・家庭との連携を深め、教育相談活動の充実を図る。	○日常の課題についてタイムリーに協議し、課題解決に向けた取組ができた。(持ち物、廊下歩行、呼び捨て等) ○児童会活動と連動する取り組みを仕組む中で、児童が主体的に取り組む形が作れてきた。 △日常的に発生する児童課題について、更に機敏な対応ができるように工夫していく。

健康（体育）・安全	・健康安全に関する学習を進め、実践力の向上を目指す。 ・児童が安全な生活を営む正しい判断力と実践力を育てる。	・日常活動（朝マラソン・縄飛び・全校遊び）を通して、健康で自分らしく生きようとする態度（心）を育成する。 ・安全に関する活動を通して、正しく判断・行動する力を育成する。（ろうか歩行、集団登校、交通教室、避難訓練等） ・家庭と連携し生活改善や安全の取組を進める。（生活点検、交通立番活動の実施）	○朝の体力づくりで、各学年に合わせた活発な取組ができた。その結果、学年の課題に合わせた種目設定で体力が向上した。 ○健康に関する学習を進める中で、うがい・手洗い・歯みがき等、意識の向上が見られた。 △児童が主体的に意識して取り組む集団登・下校の指導に取り組む。 △家庭と連携して、生活規律の確立を目指す取組をさらに充実する。
研修（指導力の向上）	・府小研理科研究協力校として実践発表会を成功させる。（6月） ・日常的な授業研究の充実、授業改善を図る。	・理科の研究発表会を成功させる。（教材教具の開発、単元指導計画の充実、学ぶ楽しさを感じる児童の育成） ・日常的な授業公開を通して、授業改善に向けた取組を進める。	○研究発表会を通して授業研究を深める事ができた。全学年が授業研究会を実施し、理科好きの児童が増加した。 △指導と評価の在り方について研究を進めていく。
人権教育 特別支援 教育相談	・互いの良さを認め合う、集団活動の充実を目指す。 ・身近な問題について主体的に解決しようとする児童の育成を図る。	・好ましい人間関係を、授業づくりや遊びの中で育成する。 ・配慮児童保護者との連携を深める。（連絡帳、家庭訪問等） ・教員の特別支援教育、人権認識を高める研修を充実する。	○学級経営目標を明らかにして、集団活動の充実を目指せた。（学期毎、行事毎に取り組むの評価交流を実施） ○教育相談部を中心に、組織的対応を進めることができた。 △日常的に肯定的な評価を基にした取組を進めていく。 △適切な就学指導を進めていく。
開かれた学校	・PTAとの連携を密にした取組を進める。 ・多様な機会を利用して、情報発信をする。 ・地域の人材を生かした実践を進める。	・学校行事、授業参観、懇談会等を実施する。 ・学校だより、ホームページ等で情報発信する。 ・保護者アンケートを大切に改善を図っていく。 ・積極的に地域の人材を活用した授業に取り組む。	○各発表会に、PTA・地域の方の多数の参加があり、理解を得ることができた。 ○地区公民館と連携して、地区運動会が実施できた。 △ホームページ更新がなかなかできなかった。担当者を明確にして、計画的な更新を進める。 △地域ぐるみで子どもの安全を守る組織を作っていく。
次年度に向けた改善の方向性	1 児童がかがやき、いつでも楽しい学校を、全教育課程の中での推進を図る。 2 理科研究を更に進める中で、児童が意欲をもって学ぶ授業づくりの推進を図る。 3 小中連携した指導を研究し、授業規律を大切に授業の充実を図る。 4 家庭学習の充実など、保護者と連携した取組の充実を図る。 5 日常的な学力充実に係わる取組の推進。学力の検証方法の開発の推進を図る。 6 心の教育の充実。廊下歩行、言葉使い、挨拶等、課題を焦点化した取組の推進を図る。 7 地域と一体となった安全の取組。保護者、地域の安全ボランティア組織の強化を図る。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立三津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 地域・保護者に信頼される学校づくり 2 学力向上と人材育成		○地域・家庭・学校との連携（PTA事業、地域の教材化等） △授業力向上と学力充実・向上	1 「心の教育」の充実と「確かな学力」の育成 2 教職員の資質・能力の向上 3 地域・保護者との連携（学校再配置準備協議会等）
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・基礎学力の定着・向上 ・表現力の育成	・「授業力パワーアップ月間」の取組（こだわり実践、目標設定と検証、レポート研修等） ・全学級での研究授業実施（重点教科研究・複式授業研究） ・「ことばの力」を育成する授業づくり ・全校スピーチの実施 ・学期毎の検証テスト実施と回復 ・昼ドリル・全校放課後補習実施 ・百マス計算・漢字検定実施	○こだわり実践やレポート研修・校内研修の意図的な工夫等を通して、教員の意識の高揚が児童の学習意欲へとつながってきた。 ○授業の中に練り合う場や書きまとめる場を設定することで、思考力や表現力の高まりが見えてきた。 ○相手を意識した表現の工夫ができつつある。 △確実な学力定着・向上に向けた授業の工夫・改善を図る。
生徒指導	・学級経営の充実 ・特別活動の工夫	・学級経営のレポートによる実践交流会（毎週の児童実態交流） ・異年齢活動の工夫、一人一人の役割と達成感ある取組	○学級経営交流から学び直しをし、自己実践の改善につなげた。 △気になる事象や児童の変容の早期発見、早期対応に伴う組織的な対応を強化する。 ○多様な異年齢活動の工夫が児童の達成感へとつながった。
健康（体育）・安全	・家庭と連携した基本的生活習慣の確立 ・逞しい心身の育成 ・安全管理の徹底	・全体指導と個々に応じた指導・支援の充実 ・日常的な体力づくり ・タイムリーな「保健だより」の発行 ・安全点検の徹底と避難訓練の工夫・改善（地域・保護者との津波想定訓練等）	△個々の実態を的確に把握し、適切な指導・支援の更なる充実。 ○タイムリーでニーズに応じた「保健だより」を発行し、児童・保護者に啓発を図った。 ○津波想定地域・保護者と連携した訓練を実施し、意識の高揚を図った。
特別支援教育	・児童一人一人の実態把握による個に応じた指導	・学力充実部との連携による学力定着に向けた取組実施 ・児童実態交流会の実施 ・アセスメント票による気になる児童の共通理解（教育相談部・学力充実部との連携）	○学力充実部と連携した個々に応じた取組を通して、児童の意欲と集中力の向上が見られた。 ○学期毎のアセスメント票交流によって共通理解を図り、指導に生かした。 △個々の実態に応じた指導・支援の工夫・改善を図る。

研修（教職員の資質向上）	・教職員相互の連携と協働体制の確立 ・校内研修の充実と活性化	・各分掌主任によるねらいに沿った行事・取組の工夫と各自の任務を自覚した組織的な取組の実施 ・お互いに批判し合い、学び合う授業研究会の実施（意図的な仕掛け） ・「授業力パワーアップ月間」の取組（こだわり実践、目標設定と検証、レポート研修等）	○二者・三者連携を強化し、各分掌主任に応じた指導・支援を行い、学校システムの再構築が図られた。 ○意図的な仕掛けを講じて、実践を批判し、高め合う校内研が実施でき、実践意欲の高揚が図られた。 ○「授業力パワーアップ月間」の際、意図的な実践紹介や校内研等で授業づくりの意識化が図られた。 △教員の更なる資質向上を図る。
地域・保護者との連携	・地域の教材化 ・教育活動とPTA活動の連動 ・学校再配置準備協議会の推進	・地域を教材とした体験学習（大敷網体験、米作り、三津の歴史・絵本作成等） ・読書推進の取組等 ・児童・地域・保護者の不安解消の取組、情報のタイムリーな発信等	○全学年による地域の教材化と閉校に際しての全校児童による地域昔話絵本の作成と表現方法を工夫した発表をし、達成感と更なる地域の学びとなった。 ○PTA や読み聞かせボランティアによる読書推進の取組等が全校児童による手作り絵本の作成につながった。 ○2 学期より島津小との交流学习を実施し、タイムリーに地域・保護者に発信することで再配置不安解消につなげた。
次年度に向けた改善の方向性			

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立郷小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
元気・やる気・根気の三つの気を大切にしながら、一人一人が心やさしく、何事にも粘り強く活動できる児童の育成を目指す。		○様々な力を付けるために土台となる根気強さや我慢強さを育成するための取組が児童にも教師にも浸透しつつある。その結果、いろいろな面において、すぐにあきらめることなく粘り強く活動できるようになってきた。 ○学校生活の様々な場において、規範意識の高揚が見られ、何事にも真面目に取り組む様子がよく見られるようになってきた。 △一人一人の児童に基礎的な学力がしっかりついていると言い切れるような状況を作り上げる必要がある。 △我慢する力や基本的生活習慣の向上に向けてさらに家庭との連携を強化しなければならない。	(1) 教師一人一人が指導力の向上に努めるとともに、全ての児童に基礎的な学力の定着を図る。 (2) 当たり前にする20項目を中心に置きながら、規範意識のさらなる徹底を図る。 (3) 朝マラソンや縄跳びなどの取組を通して強い心の育成や体力強化を目指す。 (4) 保護者が気軽に学校に足を運べる雰囲気づくりに努める。 (5) 基本的生活習慣の向上を目指し、保護者とともに生活習慣の改善に取り組む。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・全ての児童に基礎基本の学力を身に付けさせる。 ・一人一人の学習課題に応じた指導の充実を図る。	・毎日の授業1時間1時間に必ず本時の目標を児童に示し、児童も教師もねらいを意識した授業の充実を図ることで、学習内容の確実な定着を目指す。 ・日々の補習や長期休業中の補習を大切にし、遅れのある児童個々の学力向上をめざす。また、基礎学力充実タイムに基礎的な学習を繰り返し指導することですべての学習の基礎基本となる部分の徹底を図る。 ・個別補習の充実を図る。	○全体的に学習規律が向上し、落ち着いた学習環境の中で授業に臨めている。診断テスト等の結果に大きな改善は見られないが、児童の意識に一定の成果が見られる。 △スキルの学習は少しずつ成果が出ているが、思考力を高める学習をさらに工夫改善し、取組を進める。 △補習効果が上がるように手立ての改善を図る。
生徒指導	・規範意識を培うため学校のきまりを活用し、指導の徹底を図る。 ・思いやりの心を育てる。	・当たり前にすべき20項目を示し、児童に目標を持ってやりきらせることを大切に根気よく指導する。また、授業規律や学校規律についての指導の徹底を図る。 ・児童会の活動を中心に異年齢集団の育成に努める。 ・飼育栽培活動や道徳の時間等を活用し、人や動植物のことを考える時間の設定をする。	○当たり前20項目を意識させることで児童の規範意識の向上が随所で伺えた。 ○月ごとに重点項目を指導し、児童にもやりきることを大切にしてきた。 △児童自らが進んで学校生活をよりよいものにしていくとする機運を高めていくための指導をする。

健康（体育）・安全	・全教育活動を通して、健康で安全に生活できる力の育成に努める。 ・安全指導を徹底し、事故の防止に努める。	・朝マラソンや縄跳びの取組などを通して、自己の健康づくりへの意識の高揚を図るとともに、苦しいことにも立ち向かう強い心の育成に努める。また、基本的生活習慣の確立を目指す取組をPTAとともに行う。 ・交通安全教室や避難訓練などを通して、安全意識の高揚を図る。	○心の強化をねらった朝マラソンの取組の成果が、学習面や生活面に少しずついい効果を生み出している。 △計画通りに訓練ができず、安全教育を定着させるための工夫を再考する必要がある。 △基本的生活習慣の向上に向けて家庭との連携を一層深める。
特別支援教育	・特別支援学級在籍児に対する丁寧な指導で、学力の向上を目指す ・通常の学級に在籍し、特別な支援が必要な児童の実態把握とその指導の充実に努める。	・特別支援学級で学ぶ児童一人一人の個別指導計画を作成し、指導の充実に努める。 ・通常の学級に在籍し、気になる児童の交流を定期的に行い、学級の実態、個々の実態を明らかにした上で、指導の方向性を出す。	○配慮を要する児童や気になる児童の実態交流・指導面の交流をすることで、全職員が共通理解して指導に生かすことができた。 △校内委員会や教育相談部の機能を活かし、特別支援教育に関わる全体研修の充実に努める。
研修(資質向上の取組)	・重点研究「算数科」に関わる研究授業を計画的に進め、視点を明確にした研修をすることで指導力の向上を目指す。 ・様々な研修に主体的に参加し、専門的な力量を高めるよう、自己研鑽に努める。	・KJ法を活用し、研究授業の事後研究会の充実に努めることで教員の指導力向上を目指す。 ・日々の授業をお互いに公開することで、一人一人が指導力の向上を意識して研鑽に努める。 ・今日的課題に関わる研修会を実施し、その対応に努める。	○事前研の協議をグループや全体でしながら、重点研究の研究授業を計画的に進めることで、指導力の向上につながった。 ○重点「算数科」研究授業では、参観の視点を明確にすることで事後の研究会の協議が深まり、それを自己の指導に生かすことができた。 △進んで公開授業をすることにまだまだ抵抗が感じられるなど、主体的に指導力を伸ばそうという意識は弱い。
開かれた学校づくり	・信頼される学校づくりの推進をめざし、保護者、地域との連携を深める。 ・ホームページなどを活用して情報発信に努める。	・常に保護者との連携を意識し、学校と家庭が協力しながら指導できるように努める。そのためにも、学校からの様々な情報を学級通信などでしっかり伝える。 ・月1回を目標に定期的にホームページの更新に努める。	○保護者との連絡を丁寧に行うことで、保護者との関係づくりを大切にしてきた。 △学校の様子を知ってもらうために様々な機会に情報発信をしてきたが、ホームページの中の各学年ページの更新は定期的に十分できなかった。
次年度に向けた改善の方向性	◎元気・やる気・根気のある児童の育成に努め、一人一人が心やさしく伸び伸びと学校生活を送れるよう学校づくりを進める。 ・学習面では基礎基本の徹底を図るとともに、思考力の向上にも力を入れ、一人一人に確かな学力を付けることを最重点課題とする。 ・学力向上や基本的生活習慣の定着のために、一人一人の家庭との連携をさらに深め、指導の充実に努める。 ・特別支援教育の充実に努めるために、学級実態・児童実態を細かく把握し、一人一人が大切にされる学校経営・学級経営を目指す。 ・保護者、地域との連携を深めるために、様々な機会に連絡をとったり、信頼される学校づくりに努める。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立橘小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 「賢く たくましく 心優しい子の育成」 【めざす児童像】 1 たくましく元気な子(体) 2 知恵を出し頑張る子(知) 3 なかよくやさしい子(徳) 児童・保護者及び地域の期待に応える教育を推進し、新しい時代を生きる児童の育成を目指す。		○本校の学校運営システムによる組織的・効率的・機能的な学校運営が行えた。 ○基礎学力の定着状況を踏まえ、指導方法の工夫・改善、家庭との連携により、課題克服に向けた取組が行えた。 ○多様な異年齢の取組で、豊かな人間関係の育成が図られた。 △言語能力、課題解決力、表現力等の育成を目指した個に応じた指導の充実を一層図る。 △全教育活動を通じて、主体性、表現力、人間関係を結ぶ力を一層伸長させる。	公教育に課せられた使命と責任のもとに生涯にわたる学習の基礎を培うとともに、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指した教育実践を進める。 【全教育活動で子どもに育みたい資質・能力】 1 自ら課題を見つけ、主体的に解決する力 2 思いや考えを自分の言葉で豊かに表現する力 3 学び合い・励まし合い・支え合う豊かな人間関係を結ぶ力 ～元気いっぱい 笑顔いっぱい いきいき挑戦～
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	(1)児童の学力実態、学習状況を的確に把握し、重点教科を中心に基礎的・基本的な学力を身につけさせる。 (2)授業では、指導方法の工夫・改善を積極的に行う。また、全教育活動で、言語力の向上を目指す。	・学力診断テスト等の結果分析に基づく学習意欲の向上、基礎学力の定着等を目指した授業改善の取組 ・少人数指導(算数科)による授業改善の取組 ・放課後補習(火、木)、昼ドリル、朝読書等の充実を図るための教育課程編成の工夫や組織体制の充実 ・国語科を中心にした、全教育活動での言語活動の充実(書くこと、読むこと、読書等) ・電話連絡、家庭訪問、懇談会等による家庭との連携充実	○学力診断テスト等の結果分析、学期毎の基礎学力達成状況を踏まえ、個人カルテ等を活用しながら、早期に学習課題克服に向けて取り組むことが出来た。 ○算数科を重点研究とした課題解決的な学習過程による授業づくり、少人数指導や個別補習を重視した取組によって、基礎学力の定着を図ることが出来た。 △日々の授業改善、学級経営等の工夫・改善を一層図る。 △家庭ともよく連携し、学習内容の充実に努める。
生徒指導	人権尊重の観点に立ち、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。また、いじめ、不登校等の解消に向けた教育相談の充実に努める。	・学級経営の安定に向けた学級経営評価や事例研究の取組 ・思いやりと豊かな人間関係を育むチーム活動、全校遊び等の多様な異年齢活動の取組の充実 ・定例生徒指導部会や支援会議等をもとにした問題事象への対応や組織的・継続的な取組の充実 ・小中の連携・交流や関係機関等との連携を踏まえた取組の充実	○年間を通して多様な異年齢集団による活動や日常的な取組により、自主性を伸ばし人間関係の育成につながった。 ○生徒指導部がセンターとなり、生徒指導課題について継続的組織的に取り組み、改善を図ることが出来た。 △挨拶、名前の呼び捨て、基本的な生活習慣の確立などにより、個別の課題克服に一層努める。 △学級や児童会等の自治的な活動を充実させる。

健康（体育）・安全	生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことが出来る能力や態度の育成・充実に努め、健康で安全な生活を営む逞しい実践力を育成する。	・年間を通した体力作り（朝マラソン、縄跳び等）の実施 ・年間を通した食育・保健指導等の計画的な実施 ・生活点検をもとにした生活改善の実施 ・よりよく生きるための性教育・薬物乱用防止教育の実施 ・様々な危機状況を想定した実践的な避難訓練の実施 ・登下校や日々の生活における安全を守るため地域・PTAと連携した取組の実施	○朝マラソン、縄跳び等の年間を通した体力づくりを取り組み、体力の向上を図ることが出来た。 ○津波想定、不審者対応等の危機状況に対応した訓練により、個々の危機管理能力を高めることが出来た。 △生活点検の取組を生かし、就寝時刻等の改善に努める。 △学校内外の生活安全に関わる環境、施設整備に取り組む。
特別支援教育	特別な教育支援を必要とする児童の実態を把握し、個々の教育的ニーズに応じた教育支援の充実に努める。	・支援会議の定例化（月 1 回）による児童実態の把握及び具体的な指導・支援の取組 ・特別支援教育コーディネーターを要に、関係機関ともよく連携した組織的支援の充実 ・正しい理解につなげる理解教育・交流学习等の実施 ・発達障害等についての理論研修の実施	○支援会議、関係機関との連携等により、個別な支援が必要な児童について、教育支援の充実に努めることが出来た。 ○人権教育部とも連携しての理解教育、交流学习の取組により、理解教育の充実に努めることが出来た。 △特別支援教育体制の整備、個別の指導計画・支援計画等の充実に努め、個々のニーズに応じた支援を充実する。
研修(教員の資質向上)	使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性を身につけるための不断の研鑽に努める。	・年間研修計画により、教科指導力、生徒指導力等の向上を目指した理論研修、事例研修等の実施 ・新学習指導要領をはじめとする今日的教育課題に関わる研修の実施	○年間計画に基づく専門性、対応力の向上を目指した理論的・実践的研修により、実践力の向上につながった。 △教科指導、学級経営、今日的教育課題に関わる研修を充実させ、専門性の向上に努める。
開かれた学校づくり	(1)保護者・地域社会と子育て課題を共有し、その克服を図る。 (2)地域の教育資源や人材の活用及び家庭・地域社会への積極的な発信と連携に努める。	・迅速・的確で丁寧な家庭との連携をもとにした子育て課題の克服に向けた取組 ・地域の教育資源、人材等を学校教育の充実に生かした取組（連携の在り方、仕組み等） ・学校だより、HP等による積極的な情報発信 ・学校評価の効果的な実施及び活用	○課題を明確にした迅速で丁寧な家庭との連携、各種たよりの発行、HPを活用した発信等が行えた。 ○地域の教育資源を積極的に活用し、教育活動を豊かで充実したものとして取り組むことが出来た。 △コミュニティ・スクール推進事業調査研究の成果を生かして、さらなる地域連携の充実に努める。
次年度に向けた改善の方向性	1 学校課題を克服するために、さらに学校運営システムの整備・充実に努め、組織的・機能的・効率的な教育活動を行う。 2 国語科を中心に全教育活動で言語能力の向上を目指した教育活動を充実させ、算数科を中心に授業改善の取組を充実させる。 3 課題解決能力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実に努め、教科指導力、学級経営力等の向上を図るための研修を充実させる。 4 地域とのさらなる連携に努め、学校教育の充実に努めた地域教育力の活用を図る。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立豊栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成 ・全教職員が同じベクトルで指導体制を組み、保護者や地域と連携し、心豊かでたくましく、意欲的に学ぶ児童を育成する。		・算数科の研究を進め、算数的活動や言語活動との関連において、児童の学力や意欲の向上が見られた。 ・活用する力や家庭での学習習慣の確立について具体的な取組を強化していく必要がある。 ・児童会の取組を通じた規範意識の向上が求められる。	めざす児童象　と：友達と仲良くする よ：よく考え、よく学ぶ さ：最後までがんばる か：体を鍛える を全教育活動の柱にする。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・児童一人一人の学ぶ意欲を育て学力の充実と向上を図る。	・重点教科を算数科とし、算数的活動を通して筋道立てて考える力の育成をめざす。 ・話すこと・聞くことを大切にした授業基盤(授業規律・話すこと・聞くことに対するこだわりを持つ)を作る。 ・基礎学力の充実を図るために、朝読書、全校ドリルタイム、家庭学習の推進、放課後、長期休業中の補充学習に取り組む。	○算数科の研究を進め、算数的活動や言語活動の関連を図る授業を展開することができた。その中で、児童の学習意欲が高まり理解したことを自らのことばで語り、教える姿が見られるようになった。 ○進級式全校ドリルタイムや日々の放課後補習の継続等、個々の課題に応じた手立てをとることで、約8割の児童が検証テストにおいて平均点を上回った。 △自らの考えを発信することについては、一定の伸びが見られるが、話を最後までじっくり聞きとることに課題が感じられる。
生徒指導	・児童の実態を正しく把握し、規範意識を高め、積極的に行動する子どもを育てる。	・実態交流を日常的に行い、いじめ、不登校につながる兆候を見逃さず、組織的な対応を行う。 ・集団生活のルールやマナー指導の中で、人権感覚や規範意識を培う。 ・家庭との連携を充実し、基本的な生活習慣を意識した生活のリズムを確立させる。 ・優しい言葉づかいや挨拶が「いつでも・どこでも・誰にでも」できる気持ちを育む。	○児童のサインを見逃さず、学級での丁寧な話し合いを繰り返す中で、本音が出し合えるようになってきた。 ○基本的な生活習慣を意識付けるための取組(さわやか点検・家庭学習ががんばり週間)を継続して行うことができ「生活リズム」への意識が高まった。 △児童会や人権旬間等の取組の中では、規範意識や人権意識が一定高まるが、日常生活における言動にはまだ課題が感じられる。

健康（体育）・安全	健康で安全な生活を営む実践力を育てる	- 日常的に保健指導を進める。（歯の衛生、喫煙、飲酒等） - 生活点検を実施し、健康的な生活習慣の確立をめざす。 - 給食の衛生管理と食に関する指導を行う。 - 自転車教室、避難訓練、防犯訓練等、安全指導を計画的に実施する。	○計画的に保健指導を進め、児童の健康管理に成果があった。風邪・インフルエンザの流行も最小限で食い止めることができた。 ○自転車事故を契機に、ヘルメット着用が定着した。 ○警察の協力を得、携帯電話やパソコンでの情報公開に係る学習の場を設定し、情報機器の安全な扱い方について学ぶことができた。
開かれた学校づくり	開かれた学校をめざし、保護者、地域と協力、連携しあう学校運営を進める。	- 豊栄小の教育について、PTA総会や入学説明会、民生委員懇談会等で保護者や地域詳しく説明し、学校への理解につなげる。 - 学校だよりの全戸配布を継続する。 - 地域人材、施設、設備を活かした学習活動を積極的に推進する。	○具体的な児童の姿や保護者アンケートの結果等を提示しながら、学校への理解を図ることができた。 ○総合的な学習の時間等で、地域・保護者から多大なる協力が得られ、学習活動を充実させることができた。
特別支援教育	支援の必要な児童一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程を編成し、学ぶ意欲と基礎学力の充実に努める。	- 特別な支援が必要な児童の実態を把握し、関係機関と連携した教育相談を継続する。 - 個別の指導計画による個に応じた指導を進める。 - 保護者への啓発を進める。	○計画的、継続的に個に応じた指導を推し進めることにより、基礎学力や学習意欲の充実・向上が見られた。 ○個々の課題に対応すべく関係機関との連携を密にとることができた。
研修(資質向上の取組)	学級経営力、授業力を高めつつ、互いに学びあい、高まりあう教師集団を目指す。	- 研修時間を確保し、計画的に授業力を高める取組を行うとともに、日常的に学級経営について語れる職場づくりを目指す。 - 外部からも講師を積極的に招聘し、教職員の専門性を高める研修を継続して行う。 - 外部研修を積極的に受講する。また、研修で学んだことは復講習を行い、本校の実践に活かす。	○高等学校教諭や京都府総合教育センター指導主事を講師に招いて研修会を行い、算数・国語・体育・書写等の指導方法の研修が深まった。 ○教科のみならず、学習障害や自閉症等特別支援に係る学びの場を持つ事ができ、学級経営に生かすことができた。 △復講習の時間を確保することが難しかった。
次年度に向けた改善の方向性	① 学習指導要領の完全実施の中で、指導時期・内容や授業時数を振り返り、基礎学力の定着と「活用する力」の育成を目指す。 ② 教職員の意識を更に高め、規範意識や人権意識が、学校の隅々にまで行き渡るような取組を具現化していく。 ③ 学校・家庭・地域総がかりで、豊栄っ子の身心を豊かに強く育てていくために、情報のキャッチボールを丁寧に行い「地域に開かれた学校づくり」「地域に信頼される学校づくり」を進める。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立間人小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
①質の高い学力を育む。 ②規範意識や人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性を育む。 ③たくましく健やかな身体を育む。 ④家庭や地域社会とつながり、信頼される学校をめざす。		○「ことばの力」を工夫した授業研究を進めることにより、自分のことばで問題を解決しようとする力が身に付きつつある。 ○学習規律や生活規律が児童に身に付き、落ち着いた学校生活が過ごせるようになった。 △基礎的・基本的な知識・技能の習得に不十分さが残った。	(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得や「ことばの力」を入れ込んだ授業改善を行い、学力向上を図る。 (2)規範意識を確立し、より一層安定した学校生活を過ごさせる。 (3)不登校・いじめを未然に防ぐ。 (4)家庭、地域、PTA等と連携して安心・安全な学校づくりを行う。 (5)校種間連携を推進する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	質の高い学力向上を目指した教育活動を推進する。 (1)「ことばの力」を入れ込んだ授業改善による学力向上 (2)朝ドリル、昼読書を活用した定着学習や個別学習等の実施 (3)同僚の授業参観による授業からの学びによる授業改善 (4)「家庭学習の手引き」を活用した児童の学習意欲化	(1)校内研修において「算数科」で自分の考えを文字に表し、書いたことを発表し、自信を持たせる授業づくり (2)基礎的・基本的な学力を身に付けるためのドリル学習、放課後補習、語彙力を豊富にする毎日の昼読書 (3)研究授業のほかに毎学期授業参観月を設定し、同僚の授業を参観して学び、自己の授業に活用 (4)児童実態と見合った家庭学習の手引きを再度作成し直し、家庭と連携・協力して進めることによる学習意欲の向上	○自力解決した過程を言葉で簡潔に整理して書けるようになり、自分の意見を上手に説明できるようになった。友達の意見を聞くことにより意欲的な学習に繋がった。 ○特にベテラン教師の授業を参観し、質問したり、掲示物を見たりすることにより授業づくりや学級づくりに活かせた。 ○ドリル学習や個別補習等は回復指導に効果があった。 ○家庭学習の手引きの活用は、児童の学習意欲向上と安定した授業を行う上で有効であった。 △まだ十分に自分の意見を出せない児童への支援の在り方を追求する。 △家庭学習の手引きの内容を進化させていく。
生徒指導	規範意識や思いやりの醸成により、存在感や充実感のある学校生活を過ごさせる。 (1)安心安定した学級経営や異年齢活動により、児童同士や児童と教師との信頼関係を構築する。 (2)不登校・いじめを未然に防止する。 (3)竹野地区児童がより安心かつ楽しく学校生活が過ごせるようにする。	(1)学級活動を基盤にした学校行事・児童会活動等の計画的な実施 (2)規範意識の確立に向けた「校内外の生活のきまり」の遵守 (3)組織として対応していくことにより、不登校・いじめの未然防止 (4)学級における竹野地区児童の状況把握と対応及び保護者との個人懇談や地区全体の懇談の実施	○集会活動、学校行事、児童会活動等の全てにおき、整然と集合し、話を静かに聞くことができた。 ○6年生がリーダー性を発揮し、下級生の言動のお手本を示したことで、学校全体に肯定的な雰囲気醸し出された。 ○学校のきまりを守るようになり、児童は明るく落ち着いた学校生活を過ごせるようになった。 ○どんな問題も分掌主任が把握し、組織で解決に向けた方針等を出し、全教職員一致した指導体制ができたことにより、不登校・いじめは未然に防ぐことができた。 ○竹野地区の全体懇談会で大半の保護者から「学校に行くことが楽しい。」と肯定的な感想が出された。 △思いやりのある心と規範意識を育てるために、分掌で方針を立て、全体で確認して丁寧な指導と評価を行う。とりわけ、学級経営の安定を図ることが重要である。

健康（体育）・安全	学習や運動に立ち向かえる健康な体づくりを行う。 (1)基本的な生活習慣の確立 (2)食を大切にしたい体づくり (3)学校内事故や交通事故、水難事故の防止	(1)保護者と連携した基本的な生活習慣の確立 (2)食育指導による健康な体づくりの推進 (3)安全指導の徹底と保護者、校区安全ボランティア等の協力による学校内外の事故の未然防止	○生活点検を実施して、「起床・就寝・食事・テレビ等」の基本的な生活習慣の確立を図ることができた。 ○防犯教室を開催し、児童にインターネット等の正しい活用について理解を進められた。 ○食の改善に向け、栄養職員を中心に推進できた。ホームページで学校外部にも発信し、家庭啓発につながった。 △学校管理外で交通事故が発生した。安全指導を強化していく。
特別支援教育	(1)障害のある児童個々の教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、自分で生きていく力を育てる。 (2)特別な教育的支援を必要とする児童に校内体制の確立を図り、実態に即した指導を組織的に行う。	(1)支援コーディネーター等を中心に、月1回定例部会による実態把握と具体的な手立ての策定と推進 (2)通級指導教室担当による通常学級児童への実態把握と具体的な指導 (3)特別支援学級担任による発達障害児童への支援と入級指導の実施 (4)介護職員の積極的な活用	○定期的に部会を持ち、全児童の状況把握に基づき、保護者と連携した指導が児童の学校生活を安定させた。 ○通級指導担当は発達障害のある児童に適切な指導を行うことにより、児童が安心して学校生活を過ごすことができた。 ○特別支援学級担任の授業公開や様々な取組で入級指導が円滑に進められた。児童の力が伸び保護者が納得した。 ○1年間を通して、関係の保護者等と教育相談ができた。 △通常学級の中で特別支援等を要する児童への教育支援計画の作成と具体的な指導をより一層推進する。
危機管理	児童・教職員が安心して学校生活を過ごせる。 (1)報告・連絡・相談（確認）の徹底による危機の未然防止 (2)危機管理マニュアルの見直しと実践	(1)どのような些細な事象も教頭（教頭は校長に報告）、分掌主任に入れて、実況把握と組織的対応による解決 (2)地震・津波火災を想定した危機管理マニュアルの見直しと実施	○過去、本校が経験したことを教訓に、全教職員で情報を共有し素早く対応でき、未然に危機を回避できた。 ○地震による津波を想定した避難訓練や授業時間外（掃除時間・休み時間）の地震・火災を想定した訓練を実施して、安全に避難する方法や経路等を確認できた。 △今後もあらゆる状況を想定した訓練を重ねることで児童・教職員の命を守る。
開かれた学校づくり	(1)学校に関わる情報を必要に応じて発信することで、学校教育への理解と協力を得る。 (2)あらゆる機会を設けて、学校外部（保護者・地域住民）の声を聞いて、学校改善に活用する。 (3)校種間連携の推進を行う。	(1)「間人小の教育」の配布による保護者の理解と協力 (2)授業参観、行事、児童会活動、集会活動等の参観と感想 (3)各種たより、ホームページによる学校教育の様子の発信 (4)保護者対象の教育活動のアンケート実施 (5)学校評議員、学校関係者、民生児童委員、校区安全ボランティア守る会からの意見・感想等の活用 (6)園児、児童・生徒が安心した学校生活を過ごせる保・幼・小・中連携の推進	○「間人小の教育」を配布して、本年度の学校が進めようしている内容の理解が得られた。 ○学校だより、学級だより等により、保護者の理解が得られ、連携・協力が進められた。 ○ホームページによる学校教育活動の様子が発信でき、保護者・地域の方からも好評であった。 ○学校評議員、学校関係者、民生児童委員、安全ボランティア会員等の皆さんより、積極的な意見等をいただき、教育活動に活かすことができた。 ○小学校スタートカリキュラムが作成できた。 △学級のたより等により、保護者に情報を積極的に発信する。 △課題解決を図る小中連携を積極的に推進する。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 質の高い学力を身に付けさせるための授業改善の取組をより一層推進する。 *そのために、教師が授業に専念できる教育課程の精選と教育活動の重点化・焦点化を行う。 (2)規範意識のさらなる確立と良好で柔らかな思いやりのある人間関係の構築に向けて、教育活動を展開する。 (3)課題解決に向けた力を育成するために、間人小の児童の持ち味を生かした学級経営の充実を図る。 (4)保幼小連携教育、小中連携教育の推進により、課題解決を図る。		

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「ともに学びあう宇川の子の育成」に努めるとともに、保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。		○落ち着いた学校生活を基盤とし、成就感・達成感等を多くの場面で引き出し、意欲のある児童を育成しつつある。 △授業づくりと学級経営を一体化した実戦力を更に高めていく必要がある。	1 基礎学力の充実と向上 2 学校大好き、いじめ・不登校の未然防止 3 信頼される学校づくり 4 小中連携の推進
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1) 個に応じた指導の充実を図り、基礎的な学力の定着を目指す。 (2) 「わかる授業」を目指し、授業改善を行う。 (3) 積極的な小中連携を行う。	・児童の学力実態から個に応じた指導と回復を図り、年度末には検証テストも実施し、今後へも生かす。・家庭学習週間確立のため、「家庭がんばり週間」の設置など、保護者との連携を行う。 ・国語科を中心とした「話す力・聞く力・書く力」の言語力の育成を目指し、授業改善を行う。 ・ドリルタイム、休み時間・放課後の補習・夏季休業中での算数補習（5日間）を組織的に実施する。 ・小中連携を活発化し、振り返りスタディ、合同研修会、合同行事、出前授業、参観等を積極的に行う。	○検証テスト結果等からも基礎・基本の定着状況が改善しつつある。また、全教員で学力に課題のある児童への指導にあたることで、基礎学力の向上につなげることができた。 ○国語科での授業研究では、事前研を模擬授業とし、教員の意識向上へつなげることができた。 △家庭での学習習慣の改善を更に図っていく必要がある。 ○小中連携では合同研修会や授業参観等を通して学力向上へ向けて、教職員の意識向上へつなげることができた。
生徒指導	(1) 児童の内面理解に努め、いじめ・不登校の未然防止を図る。 (2) 望ましい集団活動を通して規範意識や社会性を育てる。 (3) 生徒指導の三機能を生かした学級経営の充実に務める。	・生徒指導部会と教育相談部会の定例化を図り、共通理解のもと、不登校の早期対応と課題解決を図る。 ・異年齢集団活動を通して好ましい人間関係の育成を図る。 ・児童と児童、児童と教師、教師と保護者との信頼関係の構築に努め、児童にとって存在感・充実感のある学級経営に心がける。 ・保小中連携をはじめ家庭や各関係機関との連携を図る。 ・気持ちよい「あいさつ」ができるようにする。	○内面理解や早期対応に心がけ、不登校0が継続し、更に小中連携により、中学生（気になる生徒）への支援もできた。 ○日常生活や行事等を通して、上級生が下級生の面倒をよく見るなど、心の教育に役立っている。過日の六年生を送る会では、心のこもった会で感動的であった。 ○「あいさつ」は、学校生活だけでなく登下校中でも地域の方にはよくできる。 △しかし、通学班で、集合場所での自分達同士のあいさつは、まだ、不十分な場面がある。

健康（体育）・安全	(1) 健康で安全な生活を営む実践力を育てる。 (2) 校内外における事故防止と安全の確保に努める。	・各学期はじめに、各家庭との連携した生活習慣アンケートを実施し、基本的な生活習慣の確立を図る。 ・朝ランニング（春・秋）、なわとび（冬）を積極的に実施し、体力向上に努める。 ・練習過程を大切に、各種大会へ積極的に参加をする。 ・必要に応じた避難訓練（火災・地震・津波）を実施する。 ・保健だよりを活用して指導を行い、健康の大切さの理解のもとに予防に心がけさせる。	○生活習慣アンケートでは、家庭と連携し基本的な生活習慣の確立に役立った。 ○各種大会へ向けて校内体制で取り組み、成就感、達成感を味わわせ、体力向上や意欲づくりにつなげた。 ○インフルエンザ患者を一人も出さず、保健指導や健康管理の成果が見られた。 ○地震、津波を想定した避難訓練では、学校だけでなく地域・家庭にいる場合でも、どこの高台に避難するのか家族で話し合い、確認することができた。
研修(資質向上の取組)	(1) 重点教科「国語科」で授業実践力の向上に努める。 (2) 府教育委員会「京の未来創造校」（小中連携）としての校内研修を活性化し、指導力向上へつなげていく。	・国語科を中心に「話す・聞く力」の育成を図りながら、授業実践力向上を組織的に行う。 ・小中合同研修会や各部会での充実を図り、職員同士の交流を積極的に行い、小中連携を充実させていく。	○担任全員が研究授業を行い、事前研は模擬授業にし、教員の意欲向上を図りながら実践力の向上につなげることができた。 ○小中連携では、職員同士の話し合いの時間をできるだけ設定し、特にコミュニケーション力をどのようにつけるのか真剣な討議ができた。これを更に来年度へつなげていきたい。
特別支援教育	(1) 特別な支援を必要とする児童に対して教育的ニーズに応じた指導方法や工夫、改善を行う。 (2) 特別支援学級や障害のある児童への理解教育を進める。	・特別支援を要する児童に対して、個別の指導計画等の活用を図りながら、よりきめ細かな指導を積極的に行う。 ・全教職員による共通理解のもと、理解教育を全学級で進める。 ・就学指導において、保護者・中学校・特別支援学校・関係機関との連携により、児童の適正な就修学を図る。	○計画的、継続的に個に応じた指導を押し進めることにより、基礎学力や学習意欲の充実に成果が見られた。 ○特別支援教育の理解教育も年々深まり、特別支援学級児童も全校から温かく見守られている。 △一部であるが、学校と保護者とが一致した方向で取り組めない家庭があり、連携が更に必要である。
特色ある学校づくり	(1) 地域教材（人的・物的・環境）を生かした教育活動を進める。 (2) 小中連携を生かした教育活動を推進する。 (3) 保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。	・宇川地域の特色を生かし、積極的な教育活動を行う。 ・小中9年間を見通した教育活動を推進する。 ・学校行事や対外的な活動（陸上大会・駅伝大会・太鼓発表）等に保護者に参観してもらう。 ・保護者や地域へタイムリーな情報を提供する。	○宇川地域の方々に積極的に協力をいただき、地域教材を生かした特色ある教育活動ができた。 ○小中連携では積極的な交流で一定の成果があり、次年度につなげていきたい。 ○学校行事や陸上大会等の児童の意欲的で真剣ながんばりを見てもらい、信頼される学校づくりに役立った。 △学校・学級の教育活動の発信の機会を更に広げたい。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 府教育委員会指定（京の未来創造校）「義務教育9年間を見据えた小中連携の研究」（11月発表予定）を充実させる。 (2) コミュニケーション能力を育成し、表現力や言語力を高める。 (3) 保護者と連携し、家庭での学習習慣の定着を高め、学力向上へつなげていく。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
よい心をもち、しっかり学習し、のびのび運動する子の育成に向けて 「自分で考え、本気でがんばる」活動に 焦点をあてた取組の推進		○目指す授業の共有化が進み、基礎学力の充実が図られた。 ○組織的な運営や課題の共有化が図られつつある。 △基礎学力のさらなる充実、学習意欲の向上に向けた取組を 家庭と連携して進める。 △規範意識、コミュニケーション力を向上させる	(1) 基礎学力のさらなる充実、学習意欲の向上を図る 取組を徹底させる。 (2) 肯定的な評価を基本に、児童の主体的な活動を通して 規範意識、コミュニケーション力を向上させる。 (3) 保護者や地域への積極的、具体的な情報発信と、 「中学校で発揮できる力」を意識した学習指導、 学級経営を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・授業実践力を向上させる。 ・学力定着の取組を工夫する。 ・「中学校で発揮できる力」を意識した学習習慣の定着を図る。 ・家庭と連携し、「がんばりを支える環境」づくりを進める。	・ねらいを達成する1時間の授業スタイルを構築する。 ＜習熟を図る過程の組み込み、各時間の達成度の把握＞ ・繰り返し学習の内容と方法を工夫する。 ＜チャレンジ学習の内容の工夫、放課後補習の充実＞ ・吉野小「学習のきまり」の定着を図る。 ＜「きまり」の見直しと、中学校との連携を図る＞ ・家庭と連携して、学習習慣の定着を図る。 ＜具体的な情報発信、さわやか点検と連動させた取組＞	○算数を中心に、基礎的な学習内容の定着が図られた。 ○全校的なドリル学習や補充学習の取組が進み、学習に向かう意欲の醸成が図られた。 ○「中学校で発揮できる力」を意識した授業規律が定着してきた。 △特別支援教育の視点も加え、個別の実態把握の徹底と個に応じた指導を充実させる授業改善を進める。 △学習意欲の向上や活用力を高める取組を、家庭や中学校と連携して進める。
生徒指導	・コミュニケーション力を高め 良好な友達関係を育成する。 ・規範意識を高める。 ・不登校やいじめの未然防止に努める。	・掃除、給食など、年間を通じた異年齢活動を充実させ、リーダー性やコミュニケーション力の育成を図る。 ・肯定的な評価を基本に、良いことはほめ悪いことは叱ることを徹底させ、規範意識を高める。 ・家庭や関係機関との連携を密に、具体的に情報発信する。	○異年齢活動が充実し、高学年のリーダー性が向上した。 ○児童会を中心に、自分達でルールを守ろうとする動きが出てきた。 ○不登校傾向児童の登校状況が改善された。 △肯定的評価を基本にすえ、「中学校で発揮できる」規範意識の育成を進める。 △発達的な課題のある児童の内面理解に努める。

健康（体育）・安全	- 主体的に運動する児童を育成する。 - 事故の未然防止や、安全確保に対する意識を高める。	- 朝の体力づくりを年間を通して実施する。 ＜マラソン（ペース走の取組）、全校縄跳び＞ - さわやか点検を各学期実施し、生活習慣確立の柱にする。 - 児童会活動と連動させ、安全を自ら意識する取組を進める。 - 登下校の安全指導の徹底と、地域のボランティア等と連携した取組を進める。	○走ることへの意欲や運動への主体性が高まり、校内マラソン、市駅伝大会での好記録達成につながった。 ○さわやか点検を、家庭学習がんばり週間と共に学期ごとに実施し、具体的な形で取組内容を家庭に提案できた。 ○登下校の状態は良くなっている。 △自分で体の安全や健康を守る意識を高める。
開かれた学校づくり	- 家庭、地域との双方向の連携を進める。 - 豊富な地域人材や施設の積極的な活用を図る。	- 学校や児童の様子等、学校・学級だよりや HP を活用し、積極的、具体的に情報発信し理解を得る。 - 学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。 - 地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用する。	○学校、学級だよりや HP 等で、保護者の思いも取り入れ、具体的に連携内容を伝えることで、双方向の連携が進んだ。 ○地域や学校支援ボランティアの方々による学習支援、クラブ活動、学校行事への協力が進んだ。 △学校評価、保護者アンケート等活用をさらに進める。 △PTA 総会、学級懇談会等でも積極的に情報発信する。
進路指導	- 将来の夢や生き方を考える指導を計画的に進める。 - 中学校区を中心に就学前から中学校卒業時までを見通した保小中の連携を推進する	- 保護者学級（親が先生役の授業）を中心に、将来の夢や仕事について考える機会を提供する。 - 学習指導、生徒指導の小中の課題の共有化を進める。 - 保小、小中の連絡会議の内容、設定を工夫する	○保護者学級で保護者の仕事にかけける思いを児童が聞くことにより、将来の夢や仕事について考える機会になった。 ○あいさつ運動など、小中合同の取組が進み、教職員が合同で研修する機会等を通じ、学習規律の確認や課題の共有化を図ることができた。 △保小、小中の連絡会議の機会、内容をさらに充実させ、児童・生徒が連携する具体的な活動を探る。 △中学生のよさや能力を生かした連携の取組を進める。
特色ある学校づくり	本校の伝統や地域の財産に支えられた取組を充実させる。	- 吉野フェスタ等、豊富な地域の資源を活用した本校独自の取組を進める。 - 全校マラソンの取組を年間を通して進め、運動が好きな児童を育てる。	○もち米・赤米づくり、吉野フェスタの取組等、豊富な地域資源を活用し、地域の方の協力による取組が進んだ。 ○全校マラソンなど、走ることを通じ、児童の運動への意欲が高まり、自信につながっている。 △学校再配置を見すえ、地域と連携した本校独自の取組をさらに追求していく。
次年度に向けた改善の方向性	5 年、10 年先を見通した特色ある学校づくりに向けて ○学力の充実、学習意欲の向上に向けた徹底した取組の推進 ○家庭・地域との具体的な行動連携と特色ある学校づくりの推進 ○中学校区での小小連携、小中連携の推進		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立溝谷小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「心の繋がり」と「確かな学力」を培う 1 確かな学力を培う基盤として、豊かなコミュニケーションを重視した学級経営や児童会活動を通して、児童同士の心が繋がる好ましい友人関係の構築を進めるとともに、規範意識の醸成を図る。 2 確かな学力をつけるため、基礎・基本の定着や言語活動を重視した取組を通して、思考力、判断力、表現力等を育成する学習指導及び学習環境整備を進める。		○好ましい友人関係の育成に組織的に迫り、挨拶をする児童が増えたり、児童間の問題事象が減少したりするなどの改善が見られた。 ○校内授業研、グループ研（模擬授業）をとおして、研究が深まるとともに、実技研修、授業公開による実践力の向上が図られた。 ○配慮する児童・保護者への組織的な指導・支援が児童の変容と理解・啓発に繋がった。 △多様な児童集団の場を活用したリーダーの育成 △規範意識の醸成と自律心の育成 △基礎・基本の定着と言語活動の充実による活用する力の育成 △目標実現に向けて、挑戦し続ける強い心と体の育成	1 やさしさ （１）時と場に応じたあいさつを元気よくする。 （２）一人一人の違いを認め合える思いやりの心をもつ。 2 かしこさ （１）教え合い、みんなで分かり合う学習をする。 （２）きまりを守り、先を見通した行動を自分で判断できる力を付ける。 3 たくましさ （１）目標の実現に向けて粘り強く取り組む強い心と体をつくる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 新学習指導要領及び、児童の実態を踏まえたカリキュラムを編成・実施する。 2 学習内容、学び方、学び合いを明確にした授業を行う。 3 基礎・基本の確実な定着を図る。 4 家庭と連携し、学習習慣の確立に努める。	1 新学習指導要領に基づく年間指導計画の作成及び的確な進行管理を行う。 2 単元構想（言語活動）を基にして、１時間ごとの授業計画（発問）を立て、ねらいを週案に明記する。 3 日常的なテストや学力診断テスト等から指導課題を明らかにし授業改善に生かす。 4 ３学期に検証テストを行い、課題の回復を行う。 5 家庭学習頑張り週間を月１回設定する。	○年間指導計画を作成した。また、週案や月ごとの時数集計からの確な進行管理を行った。 ○ねらいを週案に明記した。重点教科（算数）については単元によって詳細な授業計画を立てた授業が出来た。 △学び方、学び合いのある授業を追究していく ○誤答分析から指導課題を明らかにし、計画的なドリル学習や関連単元で補充学習を行うことにより、基礎基本の定着が図られた。 ○家庭学習の習慣化が図られた。
生徒指導	1 リーダーの育成を図る。 2 規律の確立、規範意識の醸成及び自律心の育成を図る。 3 不登校・いじめ等の未然防止を図る。	1 児童が主体的に動く活動を組織する。（係活動、学級遊び、集会活動、委員会活動等） 2 規範意識、生活規律を基本とした月目標を設定して組織的に取り組む。 3 指導支援部会を定例化し、組織的に取り組む。	△教師の指示による活動が多く、児童の主体性の育成に繋がりにくかった。 ○児童の規範意識の向上が見られ、決まりを守る児童が増えた。 ○児童の好ましい友人関係が図られた。

健康（体育）・安全	1 食育について研修をし、児童の望ましい食習慣の確立を図る。 2 危機回避能力を育成する。	1 市給食研を見据え、食育指導の年間指導計画を作成し、検証・改善を行う。 2 事例を教材にしながら、先を見通した行動が出来るよう計画的に指導する。	○年間指導計画に基づいた指導をし、児童の食生活に対するマナーが向上した。 △児童の怪我は減少傾向にあるが、児童数の割に多い。今後も先を見通した行動ができるよう、様々な場を通して継続した指導を行っていく。
研修(資質向上の取組)	1 重点課題解決に繋がる校内研究・研修の充実を図る。 2 教師としての専門性、資質・能力の向上に向けての研鑽を行う。	1 重点研究については、模擬授業を行い授業研究の活性化を図るとともに、理論研修を行う。 2 校内研修やグループ研等で言語活動を重視した取組について交流・学習をする。 3 生徒指導の機能が生きた学級作りの研修を進める。（事前にテーマを決め、実践に基づく事例研を行う。） 4 初任者研修を全校体制で行い、互いに学び合う。	○模擬授業を行い、課題意識を持って授業研究に臨むことが出来た。そのことにより、事後研究会が充実し教師の指導力の向上が見られた。 △言語活動を重視した授業イメージの共有を図ることが必要である。 △学級作りの理論研修とそれに基づく実践レポートによる研修を行う。 ○授業参観を全員で行い、教師の指導力の向上に役立った。
開かれた学校づくり	1 家庭・地域社会との連携を図りながら、教育活動の推進、健全育成に努める。 2 地域伝統の継承など地域を生かした豊かな体験活動の充実を図る。	1 学校や担任の教育方針が一層見える学校だよりや学級通信になるようにする。HPの更新を定期的に行う。また、PTA会議、懇談会等で積極的に情報の公開を行う。 2 外部アンケート、学校評議員会議、学校関係者評価会議等を行い、学校運営の改善に生かす。 3 学校支援ボランティアや地域の人材を活用した取組の充実を図る。	○HPは新たにPTAのページが開設できた。学級通信は教師の指導観が伝わる通信が増えた。保護者も肯定的に捉えている。 △学級通信については、今後も教師の指導観や児童の様子が分かるよう工夫改善を行っていく。 ○各種アンケートを学校改善に生かしている。 ○地域のボランティアを活用した授業は、児童が意欲的に活動した。
危機管理	1 児童の安全確保に努める。 2 全教職員に対して危機管理及び危機管理意識の徹底を図る。	1 校区安全ボランティアの活動の充実を図る。 2 校区安全マップの改善を図る。 3 登校指導、下校指導を計画的に実施する。（登校指導月3回、下校指導週1回、付添下校学期2回） 4 危機管理に係るタイムリーな情報提供を行う。	○ボランティアの活動を広報し、啓発を図った。 ○校区安全マップに子ども110番の家を掲載した。また、付添下校で児童とともに確認した。 ○児童の登下校の仕方が向上した。（1列に並ぶ） ○職員の危機管理意識の向上が見られた。
次年度に向けた改善の方向性	○重点研究を核として活用力の育成を図る授業の創造 ○児童が主体的に学ぶ授業の追究 ○児童の主体的な集団活等を通して好ましい友人関係の構築とリーダー性の育成及び規範意識の醸成 ○理論研修に基づく実践交流		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立鳥取小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
知・徳・体、調和のとれた人間形成 ～かしこく やさしく たくましい児童の育成～		○ 教職員の協働意識による教育活動の推進が図れた。 △ 小中連携の推進を図る。	①自分の考えに理由をつけて言える児童の育成 ②友達の気持ちを思いやれる児童の育成 ③自分の体や生活に関する科学的な知識・技能の習得
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○「活用力」「思考力」 の育成を図る。 ・意味や理由を考える授業づくり ・既習事項が活用できる授業づくり ○読み・書き・計算する力、知識・技能を確実に習得させる。 ○語彙量を増やす。 ○学習習慣を確立する。	○自分の考えに理由をつけて発言する授業づくりをする。 ・課題解決的な授業づくり(算数科の研究)を通して行う。 ①「なぜか」というと～だからです。」と明確な根拠を理由として説明する発言や記述を評価し、積み上げる。 ②「同じ」「似ている」、「じゃあ～だったら」「～だったら」等、共通点や他の場合や、例を挙げる子どもの発言や記述を評価し、積み上げる。 ③自力解決だけに頼らず、ペア学習や小集団での話し合を大切にする。 ④振り返り過程、「学習のまとめ」を大切にする。 ○「読み・書き・計算」、知識・技能を習得するため、徹底して反復練習をする。(教育課程に位置づけ、全校で取り組む。) ○家庭学習の充実を図る。 ○「全校1万冊読書」「朝読書」の取組をする。	○活用力・思考力の伸長が図れた。 ・課題解決的な学習を通して、自分の意見に理由をつけて発言出来るようになった。 ・学んだ知識、技能の活用を通して、「考える力」を伸ばしてきた。「答え」を出すことが中心の学習から、その根拠や理由も大事にできる学習へと変わってきた。 ○繰り返し練習し(計算2万～3万問、文字練習5千～1万字)、「読み・書き・計算」する力の伸張が図れた。 ○1人平均百冊の本を読み切り、読書力を伸長させた。 △小中一貫Ⅱ期充実期(5年～中1年)に於いて、課題解決的学習を充実させ、活用力・思考力を一層高める。 △小中一貫Ⅰ期基礎期(1～4年)に於いて、繰り返し練習を徹底し、「読み・書き・計算」する力等を一層高める。
生徒指導	○人間関係力の育成を図る。 ○生活規律の向上を図る。 ・他律(大人に言われて)から社会律(仲間と共に)へ ○挨拶の励行を図る。 ○不登校0人の継続を図る。	○学級経営・全校活動・学級活動の充実を図る。 ・生徒指導の3機能を生かした取組を進める。(児童会活動、学級活動と学校行事との連動、班づくり、学習集団の育成、学校・学級ルールづくり、作文や日記の交流等) ○学校生活のルールやマナーを仲間と共に守る取組の充実を図る。(児童会・学級活動・生活改善の取組の充実等) ○教育相談・就学指導の充実(定期懇談等)を図る。 ○防犯教室を実施する。	○自己有用感・自己肯定感・自信を持つ児童が増加した。 ○規範意識の向上・自己客観視する力の向上が図れた。 ○相手を思いやる多くの児童の姿が見られる。 ○ルールやマナーを遵守する力が伸長した。 ○担任・児童・保護者間の信頼関係の高まりがみられる。 (不登校0人、欲求不満耐性の高まり、社会性の伸長等) △進路先中学校での不登校の解消を図る。(小中一貫) △小中一貫Ⅱ期充実期で一層社会性、自己肯定感を育む。 △小中一貫Ⅰ期基礎期で徹底して規範意識を醸成する。

健康（体育）・安全	○健康な体や生活に関する科学的な知識・技能の習得を図る。 ○健康な体や生活に関する科学的な知識・技能を生かす生活づくりの取組をする。	○健康教育・食育の充実を図る。 ・健康な体や生活に関する知識を学ぶ保健学習・学級指導 ・「食」「目・歯」「性」「風邪」等に関する指導 ○健康な生活づくりの取組を進める。 ・朝マラソン・縄跳び、外遊び、給食、手洗い・うがい ・「早寝・早起き・朝ご飯＋家庭学習旬間」の取組 ・廊下歩行・登下校の取組	○全員出席の日 72 日（昨年 61 日）、全児童給食完食、インフルエンザ・風邪の予防等、体や生活に関する知識や技能を健康な生活づくりに生かす姿が見られる。 △全員出席の日 100 日を達成する。 △体や食・安全に関する科学的知識・技能を活かし、主体的に健康な生活づくりをする。（テレビゲーム・テレビ視聴時間の縮減、うがい・手洗い、虫歯治療等）
特別支援教育	○発達障害がある児童の教育的ニーズに応じ、障害に基づく困難の改善・克服を図る。	○児童の実態把握をする。（個別の指導計画と個別の支援計画の作成、指導票の作成、エピソード・指導記録の積み上げ） ○定例部会（特別支援部会・指導担当者部会）を開催する。 ・個々の児童の状況と指導について方針策定、交流・確認 ○教委・医療機関・支援学校・巡回相談等と連携を図る。	○発達障害のある児童の困難さ、困り感が一部改善した。 ・保護者・学校・関係機関が連携した指導の充実 ・通常学級・特別支援学級・通級教室が連携した指導 △発達障害児童への効果的な対応・指導法の在り方の研究を深め、家庭・関係機関と一層連携を図る。
危機管理	○危機管理マニュアルの見直し、共通確認を図る。 ○些細な事象に対しても、「報・連・相・確認」を怠らない。	○危機管理マニュアルの見直しをする。 ・マニュアルに従った管理、指導の徹底 ○組織的に、「報・連・相・確認」を徹底し、状況把握と迅速な対応を図る。	○学校事故、文書管理、学級費管理等マニュアルを生かし、対応できた。 ○「報・連・相・確認」を組織として機能させることができた。 △自然災害等、緊急時の地域への連絡を漏れ落ちなく行う。
職員の研修	○授業力の向上を図る。 ○学級経営力の向上を図る。 ○研修組織・研修方法の機能化を図る。	○「京の子ども、夢・未来校」として研究の充実を図る。 ・授業研究会を中心に研修を深める ・研究校視察 ○教職員評価による実践の推進支援と評価を積み上げる。 ・基幹分掌を中心とした組織的 O J T、三者・ベテラン教員による個人的 O J T の充実を図る。 ・基幹分掌活動の充実を通して、中堅教員の分掌経営力の向上を図る。 ○モチベーションマネジメントの充実を図る。 ・タイムリーな労いと肯定的評価・指導的評価の集積 ・評判評価（組織評価）の充実 ・お互いの組織への貢献・実践を評価し合う。	○年間 23 回の授業研究会を行い、若手教員が積極的に授業研究会に参加し、授業力・学級経営力を向上させた。（課題解決的な学習、児童が自分の意見や考えに理由を付けて発言する授業を目指した研修を進め、力を付けた。） ○組織的・個人的 O J T が機能し、教育活動充実の結果として、職員の指導力、児童・保護者対応力が向上した。 △小中一貫Ⅱ期（充実期）における「活用力」「思考力」の育成、自尊感情・社会性の育成について一層研修を進める。
次年度に向けた改善の方向性	○「読み・書き・計算」力等を中心に、知識・理解・技能の確実な獲得を図る。（主として小中一貫Ⅰ期基礎期） ・徹底して繰り返し練習させ、確実に身に付けさせる。 ○概念・法則・定理等の学習を中心に、「活用力」「思考力」等の向上を図る。（主として小中一貫Ⅱ期充実期） ・課題解決型 4 過程の授業を通して、充実を図っていく。〔算数、国語（「読み方」学習）を中心に指導の在り方を研究し、実践化を図る。〕 ○「他律」的な規範意識や言動を、「社会律」的なものに高めていく。（学級経営の充実、全校活動・児童会活動の充実を図る。） ○卒業生の中学校における不登校 0 を実現させ、欠席日数を一層減少させる。（小中一貫Ⅱ期充実期における小中連携の充実を図る。）		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立黒部小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標 (かしこく、やさしく、たくましく)の達成		○たくましくは着実に児童が肯定的に変化してきた。 △児童の肯定的な変容に直接結び付ける授業づくりが課題である。	①学力の定着 ②社会性の向上 ③たくましい体づくり
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	◇基礎学力の定着 ◇ことばによる表現力の育成	①言葉の力の育成を研究主題として、国語、算数科を重点教科に絞って授業研究を進める。 ②学習指導部が問題を準備して、全学年が系統的に問題に取り組むことで、基礎学力を充実させるドリルの時間を設定して取り組む。 ③昨年度から取り組んできた俳句作りを、国民文化祭「短歌大会」へつなげて積極的に参画し、1年間継続した取組を進める。行事ごとに短歌を作成させ、廊下に掲示する。	○短歌による表現力が向上した。学校全体で国民文化祭短歌大会に向けて、昨年度からの継続した指導に取り組み、学校奨励賞を受賞することができた。 ○絵画表現が向上し、全国美術展に数多くの入賞を果たした。 △基礎学力定着は、DRT テストの結果を見ると十分についたと言えない。もっともっと結果を良くすることが急務だと考える。
生徒指導	◇人にやさしい行動力の育成 ◇善悪の判断力の定着	①児童の実態を詳細に把握するとともに、児童会活動等を活性化し、自ら生活改善を実践させていく。 ②児童の実態を会議ごとに報告し合い、児童の行動のもとにある判断力を把握して、適切な行動へ導く学級指導に生かす。	○問題事象、いじめ等、生徒指導上の問題もなく、児童は生き生きと学校生活を送ることができた。 △集団でまとまる半面、個々の考えを出すことに躊躇する児童が多く、個々人の善悪の判断力を向上させることが課題だ。
健康 (体育)・安全	◇学校を休まない、たくましい体づくり	①毎日の児童の給食の状況を細かく把握して、その都度、こまめな指導を行う。 ②毎日の出欠状況を詳細に把握し、養護教諭から健康管理と指導に関する方針を出させて担任による児童指導に生かす。 ③朝マラソン・なわとび・大縄大会、鍛練遠足、放課後陸上教室を実施して、体力向上の取組を総合的に推進する。	○「欠席0人」の日数を、年間60%以上を昨年度に続いて達成するなど、全体的にたくましくなった。 ○遅食児童もほぼ0人を達成し、意欲的に食べる姿勢がついてきた。 ○大縄大会で新記録を達成し、市小駅伝7位を獲得するなど、継続した体力づくりが浸透してきた結果が表れた。 △児童の実態をさらに詳細に把握して、児童自身が意欲的に取り組むような仕組みづくりが必要だ。

開かれた学校づくり	◇教育活動への理解の深化	◇ホームページを頻繁に更新し、学校や児童の様子をこまめに保護者に伝える。 ◇授業や学校行事等を継続的に公開し、教育活動の状況の理解につなげる。	○継続して見ていただいている保護者から好意的な感想をよくいただいた。 ○計画的に行事や授業を公開し、保護者からの肯定的な評価を多くいただいた。
特別支援教育	◇特別に配慮を要する児童の学力向上	◇特別支援学級の指導がスムーズにいくよう、教務主任・学級担任と特別支援学級担任が連絡を密にして時間割を工夫することで、効果的な指導を進める。	○今年度より再開したえのき学級の指導を軌道に乗せることができて、在籍児童が落ち着いて学習に向かう姿勢ができて、学力が定着しつつある。 ○普通学級で集団活動に入りにくい児童が、体験的にえのき学級で学習することがあり、指導を素直に受け入れ、学習に立ち向かう姿勢ができるようになった。
特色ある学校づくり	◇外部人材を活用した教育活動の活性化による学力の向上	◇地域支援本部事業を積極的に活用する。 ①算数科のT2、放課後補習 ②習字指導 ③珠算指導 ④放課後陸上支援 ◇京都府教育委員会の理科支援員事業を活用する。 ①授業や環境整備に支援員を活用する	○地域の優秀な人材を積極的に活用して、教育活動を推進することで、児童の学力向上につなげることができた。 ① 該当学年（高学年）の習字が上達し、保護者・地域から、肯定的な評価をいただいた。 ② 放課後陸上指導教室に参加していた児童が、今年度より立ちあがった社会教育団体に多く参加した。学校教育と社会教育連携の典型的な事例になった。 ③ 一昨年度よりお世話になっている和田健吉先生の力が大きい。児童の実態を踏まえて指導を工夫していただき、児童は珠算がすきになった。 ④ 放課後陸上指導教室に来ていただいた吉岡俊八先生に、理科支援員としてもお世話になった。大変丁寧な指導で、児童は理科が好きになった。来年度はボランティアとして来ていただく予定にしている。 ○ボランティアも気持ち良く、喜んで来ていただいた。 ○地域支援本部事業や理科支援員事業は、指導力を向上させたい若い教師によってとてもよい手本になった。
次年度に向けた改善の方向性	・学力（中でも基礎基本）の定着を真剣に目指すために、授業を充実させることが大きな課題である。目標をはっきりとさせ課題を明確にした授業研究により、指導力の向上させなければならない。 ・黒部小の児童は自己表現力や積極的な集団活動が弱い。集団的な活動を活性化させることにより、アサーティブネスを向上させることが必要だ。 ・個々の児童の状況把握について、数値化できるものはできるだけ数値化しての課題を明確すること。そして、共通理解を深めて実践に当たる必要がある。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立野間小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
課題を主体的に受け止め、粘り強く立ち向かう力の育成を目標に、少人数であることのメリットを最大限に生かすと共に地域の自然・人材を活用することにより教育活動の充実を図る。		・少人数であることの利点を生かした教育活動を進めた。 ・文章を書く指導を通して、自分の考えを書くことや書くことを通して考えることができるようになった。 ・物事を論理的に考え、豊かに表現することには課題が残った。	重点である算数科の指導を中心として、①主体的に課題に取り組む力②多様な解き方に挑戦する力③自分の考えをわかりやすく発表する力に視点を置き、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	算数科を中心に、課題解決的な手法を指導の中に生かし、じっくりと課題に取り組ませることで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	・算数の指導に課題解決的な手法を取り入れる。 ・児童の思考力を深めるため、多様な考えを促す。 ・自分の考えを相手にわかるよう説明させる。	○課題を自分のものとして捉え、粘り強く課題に取り組ませることにより、思考力を高めることができた。 ○ひとつの問題に対して、複数の解き方に挑戦させることにより、より深く考えることができるようになった。 ○自分の言葉で相手を意識して発表できるようになった。 ○学年に応じたノート指導を進めることにより、自分の考えを整理し振り返ることができた。 △さらに自力解決の力を高めていくための指導方法について研修を進めていく必要がある。
生徒指導	異年齢集団による活動を工夫し互いに思いやる心を育てる。	・特別活動部（児童会）と連携して、楽しみながら児童相互の人間関係を深めていける活動を工夫していく。	○少人数ながら児童会本部役員が中心となって、全校が楽しめる取組を1年間を通して実施することができた。 ○上の学年の児童が下学年のことを考え行動できていた。 △自分たちで活動を工夫し、実行することは課題である。 △極少人数での活動の在り方の再検討が必要である。
健康（体育）・安全	1年間を通して体力づくりの取組を進め、健康な体づくりに努める。	・前期の朝マラソン・後期の縄とびなど、年間を通して朝の時間を中心に放課後の時間等も利用して体力づくりに取り組む。	○朝マラソン、一輪車、なわとび、キッズエアロビクスなど、1年間を通して継続した体力づくりに取り組み、健康な体作りを進めることができた。 △児童がより主体的・意欲的に体力づくりに取り組んでいけるよう、実施方法や支援の方法を工夫していく必要がある。

開かれた学校づくり	児童の学びの場を広げるため、地域の方をはじめ地域外の方々を学校に招へいし、たくさんの人たちから学ぶ機会を持つ。	・各教科、総合的な学習の時間、人権学習、食育学習などの学習においては、積極的に地域や地域外の方々を招へいし、ふれあうと共にその専門性から学ぶ。	○人権学習では、地域在住の目の不自由な方を招へいし、地域での生活の様子聞くことで、多くのことが学べた。 また、区長さんから野間の歴史について学んだ。 ○各学年の学習内容に合わせ、地域の内外から多様な方々に来ていただきその専門性から学ぶことができた。 ○食育の学習では食生活改善委員さんや栄養士さんなどにお世話になり学習を深めることができた。 △年度当初より年間計画に位置付け、より計画的な実施を目指していく。
危機管理	交通事故の防止をはじめとして、安全な生活を送るための指導に努める。	・自転車教室、交通安全教室、防犯教室、避難訓練等を実施し、体験的な活動を行う中で自らの命を守るための正しい判断力と実践力を養う。	○自転車教室、交通安全教室、防犯教室、避難訓練では、自らの命を守るための方法について、体験を通して学ぶことができた。 ○自転車教室では、地域の道路を使って、児童の生活の実態に合わせた指導を進めることができた。 △児童の下校時の安全について、引き続きパトロールを行うとともに、児童への安全指導を充実させていく。 △職員の危機意識の高揚に向けた研修を進める。
特色ある学校づくり	故郷を思う気持ちを育てるため、地域の特性を活用し、野間小学校ならではの教育を展開する。	・地域の自然を生かしたそば作りなどの体験活動や、地域の人々を活用した学習活動を積極的に進めていくことで、地域を知り故郷を思う気持ちを育てる。	○地域の名産である「そば」について、そば蒔きからそば打ちまでの一連の行程を地域の方の協力を得ながら体験を通して学び、地域について理解を深めることができた。 ○地元の神主さんからは、地区の歴史について詳しく話をしていただき、自分が住んでいる地域について理解を深めることができた。 △さらに、地域の自然や人材を生かした取組を工夫し、野間小学校ならではの教育を充実する。
次年度に向けた改善の方向性	①引き続き、主体的に粘り強さをもって課題に取り組み、自分を表現する力をつけていくための教育活動の充実を図る。 ②コミュニケーション能力を高めるとともに言語活動の充実に向け、近隣の学校との交流学習や合同学習を計画的に実施していく。 ③異年齢での活動を充実するとともに、児童たち自身が主体的に取り組んでいける活動を工夫する。 ④少人数の利点を生かしつつ、地域の自然を生かした教育活動を実施していく。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
確かな学力と豊かな心と健康・体力の育成を図るとともに、保護者・地域から信頼される学校づくりをめざす。		○学校・PTA・地域が一体となって、創立140周年記念事業に取り組むことで相互の信頼関係が一層深まった。 ○つながる教育活動を展開して、「心地よい学校生活」を創り出し、自己存在感や連帯感等を高め学校生活が安定してきた。 △特定の学年で学力・学級経営上の課題が克服できなかった。	1 校訓「一生懸命」を教育活動の根幹に置いて、「わかる授業づくり」と「信頼関係に基づく学級づくり」に努める。 2 学力の充実・向上に全力を尽くす。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○学力の充実・向上をめざす。 (質と量の両面から迫る) 1 重点教科「国語科」(一年次) 「一人一人の話す力・聞く力 を高める国語科の授業づくり」を全教職員で取り組む。 2 基礎基本の徹底を図り、基礎 学力を定着させる。 3 家庭学習習慣の確立をめざす。	1 授業の基本となる「話す力・聞く力」の育成を、国語科を中心にして、理論的・実践的に研究を深め、他教科等へ波及させる。 2 学力に課題を持つ児童に対して、個別の指導・支援計画をもとに、共通理解を図り、全教職員で徹底指導を行う。 3 言語力・表現力を付けるために、授業での「話す・聞く」を重視するとともに、読書活動・スピーチ・日記・作文等に力を入れる。 4 ドリル学習、補習等の時間を確保して、学力の定着を図る。 5 改訂版「家庭学習の手引き」を有効に活用して、家庭学習の習慣へつなぐ。	○「話す力・聞く力」を重点に位置付け、組織的・計画的に取り組むことで、児童の学習意欲や主体的な学習への参加が見られ、授業が活性化してきた。また、授業に深まりが出てきた。 ○言語力や表現力を付けるために、指導方法の工夫改善を推進することで、表現力等が確実に伸びた。 ○学力に課題がある児童に対して、時間をかけて量をこなすことで、学力の回復が図られたケースが多かった。 △特定の学年で依然として学力に課題を残している。(低学力層の伸びが弱い) △家庭学習習慣の素地はできたが、浸透力が弱い。
生徒指導	○学級づくりを基本に置いた 「豊かな心の育成」 1 豊かな人間関係の構築をめざす 2 不登校やいじめを起こさせない指導の充実に努める。 3 人権認識を培う。	1 学級づくりと授業づくりを一体化させた積極的な生徒指導を展開させる。 2 異年齢活動を中心に据えて、自己存在感や連帯感を培うことで、豊かな人間関係をつくる。 3 さまざまな資料を活用して、内面を揺さぶる道徳の時間を創り出す。 4 不登校やいじめの未然防止を図るために、教育相談体制の充実と日常的な観察・教育相談活動を充実させる。 5 人権に係る研修を積んで、教職員の指導力を付ける。	○学校・学級経営方針を踏まえ、行事や活動のねらいを豊かな心の醸成、人間関係の構築に努めてきた結果、教師と児童、児童相互の信頼関係が安定してきた。 ○サポート体制が機能した結果、問題事象は減少し、不登校やいじめは発生しなかった。 △道徳を推進する力量が乏しく、内面に迫ることが弱い。 △人権の取組期間中は、人権を意識した言動がとれるが、人権認識は浅い。指導が児童の内面に入っていない。

健 康 （ 体 育 ） ・ 安 全	1 学校内外における事故防止と安心安全体制の確立を図る。 2 基本的生活習慣の確立を図る。 3 健康への関心を高め、自分の体を自己管理できることをめざす。 4 体育・スポーツ活動の推進	1 津波を想定した安全指導体制を築くとともに、学校・PTA・地域で組織した「久美っ子見守り隊」と情報・行動連携を基本とした取組を充実させる。 2 学校・PTAが基本的生活習慣の現状・課題を共有して一致した取組を実施して改善を図る。 3 保健に係る資料を活用して保健指導を充実させ、自分の体調を管理するための記録を作ること意識を高める。 4 年間を通して体力づくりに努める。また、運動に親しむため授業や取組を通して運動能力を高める。	○学校生活の安定とともに、校内の事故や怪我が減少した。また、「久美っ子見守り隊」との十分な連携がとれ、子どもの安全や見守る体制及び活動が軌道にのり交通事故は一件も発生しなかった。 ○積極的な体力づくりに取り組み、前年度より体力・運動能力が伸びた。また、運動好きな児童が増加している。 ○健康指導に力を入れた成果として、健康への関心が高揚して、病気や怪我の減少につながった。 △基本的生活習慣確立の取組や運動を展開してきたが、浸透度や継続性に課題を残している。
特 別 支 援 教 育	1 当該児童の障害の克服と改善をめざす。 2 通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童への指導・支援の充実を図る。	1 自立して社会参加ができる資質を養うために、「個別の指導・支援計画」を活用するとともに、指導方法の工夫改善を一層推進させる。 2 通常の学級で特別な支援を要する児童の実態と課題を全教職員で共通理解するとともに、きめ細かな指導を行う。	○当該児童の障害の克服につながり、学力・社会性等が伸びた。（検査の数値や日常の学習等からの検証の結果） ○通級指導を受けた児童は、個別の指導計画を活用して適切な指導・改善が図られ、多くの終了者があった。 △通常学級在籍の特別な支援を要する児童の指導計画や具体的方策に関して、見直し・改善の必要がある。
研 修（教 職 員 の 資 質 向 上）	職種・経験年数等に応じた実践的指導力の向上をめざす。	1 重点教科「国語科（一年次）」を中心とした校内研修の工夫・改善を積極的に推進する。（事前研・事後研・グループ研・師範授業・模擬授業等） 2 教職員評価を有効に活用して実践的指導力を向上させる。	○校内研修の持ち方を工夫・改善することによって、全員参加する研修となり、お互いに学び合え、実践を試みることに繋がってきた。 ○各教員の実践の見直し・改善につながった。
開 け ら れ た 特 色 あ る 学 校 づ く り	1 創立140周年記念事業の取組を通して、学校・PTA・地域が一体となって140周年を成功させる。 2 地域学習を通して、地域のよさ・地域の将来について考えることができる。	1 百四十周年記念運営委員会を中心として、各部との連携を緊密にとり、計画・日程に沿って事業を確実に執行する。 2 百四十周年記念の取組から、学校・PTA・地域のとのふれあいを通して、期待される学校づくりに迫る。 3 児童が久美浜の自然・文化・歴史・産業等の学習を深め、「記念発表会」を実施して、学習のまとめとする。参加者や地域から評価を受け、次の学習へ生かす。	○長期間の取組となったが、運営委員・実行委員がリーダーシップを発揮して、地域や本校関係者を巻き込み式典をはじめ、各事業が成功裡に終了することができた。 ○140周年を多くの人達にかかわっていただく中で、地域の学校としての期待や応援を受けて一歩前進できた。 ○140周年を機に、児童は歴史と伝統の重みや地域の再発見・地域の将来について考えを深めることができた。
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	1 確かな学力の向上・充実をめざす。（低学力層の克服及び家庭学習習慣確立のための学力向上プランの作成と活用） 2 道徳教育を要として、豊かな心を育成する。（道徳の時間の見直し・改善、人権認識を培うための教員の指導力） 3 教職員の人材育成を一層図り、学校力を付ける。（若手教員の指導力の向上、中堅教育の育成） 4 創立140周年記念の取組で得た成果を、教育活動に活かして、信頼される学校づくりを一層推進させる。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔 京丹後市立川上小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
・児童に知・徳・体をバランスよく定着させる。 ・教職員自ら主体的な学校づくりへの参画と組織的・協働的な学校作りの展開を行う。 ・教職員評価と学校評価を活用し、教職員の資質と学校力の向上を図る。		・「伝える力」の育成を図り、考える過程を大切にした指導を展開する。 ・基礎学力の定着・充実と活用力の育成を目指して取り組む。 ・家庭・地域と連携し、学校教育の充実に繋げることができた。	・児童の自己肯定感・自己存在感を高め、生活・学習に対する意欲を高める。 ・教員の授業実践力・学級経営力を高める。 ・組織的・協働的な職員集団の育成をもとにして自信を持って保護者・地域との連携を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・基礎学力の定着と学習への意欲を引き出す指導を行う。 ・教員の指導力の向上を図る。	・重点教科を国語科とし、読む力を高めるための指導法を研究する。また、授業研究会の充実と合同授業や交流授業を行い、授業の導入やわかる授業を追究する。 ・家庭学習、ドリル学習（昼・放課後）、学習タイムを生かして学ぶ意欲を高める。	○読み取り方を学ばせる指導はできた。 △読みを深めるための指導法の研究に繋げていくことが必要である。 ○低・中学年は放課後のドリル学習時間が確保でき、一定基礎学力の定着が図れた。 △高学年は、放課後のドリル学習の時間確保が難しく、家庭学習と授業の連動による意欲喚起を図っていく必要がある。 ○授業研究会に向けての事前・事後研究会の充実や隣接学年での合同・交流授業を組むことで、教員の指導力の向上や児童の意欲的な学習に繋がった。
生徒指導	・学級経営、児童会活動の充実を図る。 ・目標達成に向け、粘り強く取り組む逞しさ身につける。	・年間を見通した取組の中で、児童目標・指導目標を連動させ、繋げていく。 ・校長が朝会等で全校に発信し、教務部と生徒指導部が進行管理する。	○児童の実態をもとに、生徒指導部（特活主任含む）が中心となり進行管理し、規範意識、場に応じた言葉づかい、挨拶の意識の高まりが図れた。また、「挑戦」「継続」を学校全体の取組に位置付け、取り組むことができた。

健康（体育）・安全	・基本的生活習慣の定着を図る。 ・健康な体づくりを推進する。	・生活点検を通して、「早寝・早起き・朝ごはん」の保護者への啓発、児童への指導を行う。 ・体育部を中心に年間を通して、体力づくりの取組を展開する。	○「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣はかなり改善された。 △生活習慣の定着を確立するために、今後も家庭への指導の手立てを工夫していく必要がある。 ○風邪等による欠席児童が減り、健康について意識できるようになってきた。 ○粘り強く取り組む姿勢が見られるようになってきた。
危機管理	・児童の安全・安心を確保する。	・「不審者」「自然災害」「交通事故」等の災害に対する危機意識を教職員が持ち、事前指導や訓練を行う。 ・保護者や地域の危機意識の醸成を図る。	○年間を通しての避難訓練に際して、職員であらゆるシミュレーションを想定し、指導にあたることができた。 ○学校の動きや社会的な事象（事件・事故）を保護者・地域に提起し、学校での取組を伝えることで、地域・保護者の危機意識の高まりを見ることができた。
開かれた学校づくり	・地域との連携の充実を通して、開かれた学校づくりを推進する	・地域行事に積極的に参加する。 ・日常的に学校開放を行い、学校行事には積極的に呼びかけを行う。	○地域（公民館活動）との窓口の教員を位置付けることにより、教職員の参加意識の高揚が図れた。 ○総合的な学習や社会科学習等に積極的に地域の人材を活用することで、地域連携の深まりに繋がった。
特色ある学校づくり	・複式学級設置に向けての動きづくりを行う。	・担当教員を位置付け研究視察と復講習を行い、全体の研修の充実を図る。	○教職員の共通理解が深まった。当該学年児童に事前に培うべき力の確認をもとに、学級指導を事前に取り組むことができた。
次年度に向けた改善の方向性	・主体的な学習意欲を喚起することを重視して、確実な基礎学力の定着と活用力の充実（家庭学習と授業の連動）を図る。 ・教員の資質向上（学級経営を基盤とした授業実践力の充実）を図る。 ・教職員の主体的な学校づくりへの参画意識と組織的・協働的な教育活動の展開を図る。 ・「挑戦」「継続」「挨拶」の充実を図る。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立海部小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 小学校の果たす役割への意識の高揚 2 不登校児童の解消と未然防止 3 信頼される学校づくり		○学力向上に向けた授業改善や補習を実施することができた。 ○二委員会を中心とした学校運営を図ることができた。 △教職員の共通理解・認識の下での協働意識の確立に課題がある。 △不登校児童の解消に向けた個に応じた指導に課題がある。	1 「魅力開発校」指定の研究推進 2 個々の課題の把握による個に応じた指導 3 心の教育の充実による自己表現力の育成 4 不登校児童の解消に向けた取組の充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・学年時に応じた学力の定着 ・読書活動の推進 ・研究指定の推進	・各種テスト（単元・期末・C R T・D R T等）の結果分析を生かし、課題把握に努める。 ・学習支援ボランティアを活用し、複数体制での学習補充に努める。（後期より） ・家庭学習の児童用手引きを作成し、家庭との連携を図る。 ・研究指定を受け、重点教科を算数科とし、研究授業・公開授業・校内研修等を通して、授業の改善を図る。	○各種テストにより、課題の把握ができ、補習を実施した。 △読書の取組の充実を図る。 ○学習支援ボランティアを活用し、複数での指導ができた。 △家庭学習の習慣化に課題が残る。 ○研究授業・算数参観等の設定、及び、校内研修での指導主事の指導助言により授業改善や指導方法の推進を図ることができた。
生徒指導	・学級経営の充実 ・異年齢集団活動による人間関係の育成 ・個々の課題の早期発見・早期対応	・個々の状況把握をし、教師と児童・児童相互の信頼関係の構築を図る。 ・学期1回のチーム活動を計画する。（ミニ運動会・地区運動会・大縄跳び） ・チーム給食を実施する。 ・職員会議・校内研修時に、児童の様子との交流をし、状況把握に努める。	△生徒指導3機能を生かした学級経営に努め、思いやり、自尊心の育成に努めたが、学年により弱さが見られた。 ○異年齢集団の活動の中で、高学年のリーダー性、学び、つながりが深まった。 ○職員会議や校内研修時に、児童の様子との交流の実施、また、定期的な特別支援委員会・教育相談部会を開催し、個々の児童の課題の早期発見・早期対応に努めた。
健康（体育）・安全	・たくましい心身の育成 ・登下校における安全意識の高揚	・年間を通して、中間休みに体力づくりの取組を行う。（マラソン・縄跳び等） ・すっきり点検を毎学期実施し、生活を整える。 ・ボランティア、あまべっ子見守り隊、スクールガードリーダー、駐在との連携を図る。	○中間マラソン・中間縄跳び・大縄跳び等年間を通して実施したことで、体力づくりを図ることができた。 △長期休業明けに点検を行い、生活リズムづくりの意識の向上を図ったが、家庭との連携に課題を残す。 ○いろいろな方にお世話になり交通安全意識の向上を図った。また、安全タスキ・防犯ブザー等の貸与を行った。

開かれた 学校づくり	・行事・授業参観等による学校公開 ・情報発信	・月1回の行事や授業参観を計画し、学校公開を実施する。 ・作品展の開催（夏休み制作品・絵画・書き初め・版画等） ・学校便り（月1回）・学級通信を発行する。 ・ホームページの更新による情報発信に努める。	○行事や授業参観時には、保護者だけではなく、学校評議員・学校評価学校関係者評価委員、民生児童委員等、地域の方にも呼び掛けることができた。そして、多くの意見をいただいた。 △定期的に発行することができた。学校便りは、地域にも配布したが、配布期日について考慮する必要がある。 △ホームページは、月初めに更新を行ったが、内容の充実を図っていきたい。
危機管理	・関係機関と連携した環境整備 ・実践的な避難訓練の実施	・不審者対応による防犯訓練を警察と連携して下校時に実施 ・「こども110番のいえ」との連携 ・親子作業による環境整備の実施 ・火災を想定した避難訓練の実施 ・津波を想定した防犯訓練の実施 ・地震を想定した避難訓練の実施	○防犯訓練は、警察・「こども110番のいえ」と連携して実施できた。 ○夏休みに親子作業を実施し、裏山の草刈り、溝掃除等を行い、環境の整備ができた。 △今年度は、初めて行った津波の避難訓練を含め、例年の訓練も実施できた。しかし、期日、内容の工夫について課題が残った。
研修(教職員の資質向上)	・校内研修の充実 ・学校経営参画意識の高揚	・毎月3回の校内研修を計画的に開催し、教師力の向上を図る。 ・三者会議・運営委員会を校内研修の前に開催する。 ・二委員会の充実に努め、主任の意識の改善を図る。	○今年度は、初任者・10年目研修もあり、全員で学ぶ機会が多くあった。 △計画的に校内研修を行い、指導力をつけるように努めた。 ○校内研修の前に、三者会議、運営委員会を開催し、校内運営がスムーズに進んだ。 △全教職員を二委員会に分け、会議の場を多く持ち、自信と責任を持った取り組みを展開し、参画意識の高揚に努めてきたが、まだ弱さが見られる。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 義務教育9年間を見通した学力の定着と向上を図る。 (2) 心の教育の充実を図り、自己表現力の更なる育成に努める。 (3) 教職員の学校経営参画意識の高揚を図る。 (4) 個々の児童の状況把握による、不登校の未然防止に努める。 (5) 保小連携・小小連携・小中連携を充実させ、小中一貫教育を見据えた教育活動を充実する。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立佐濃小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
一人一人に確かな学力をつけ、豊かな心を育てていく学校		○児童は、個に応じた指導・支援を行うことで、落ち着いて授業に取り組むことができ、行事等においても力を合わせて頑張れるようになった。 △児童が、自ら課題に取り組む意欲を持ち、粘り強く継続して自分の力を伸ばそうと努力すること。	学習や生活の様々な場面で、自分の挑戦するテーマを見つけさせ、意欲的に取り組ませる。このような生活により、達成感を味わわせたり自信をつけさせたり、失敗したことについては、なぜ失敗したのかを考えさせる。これらのことを通して児童の意欲的な態度を身につけさせる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 ・授業研究を活性化し、指導力の向上を図る。 ・個に応じた指導方法の工夫と改善を図り、学力の定着を目指す。 ・家庭へも協力を働きかけて読書活動の充実を目指す。	・授業研究部設立2年目であり、児童がわかりやすい授業づくりについて、ポイントを絞って研究を進めていく。 ・国語研究部と算数研究部で、定期的に部会を開催して、授業づくりについて研修する。模擬授業なども積極的に取り入れ、授業づくりの方法を学ぶ研修とする。 ・発達障害などの課題のある児童への支援の仕方も研究のテーマに入れ、授業づくりの大きな要素とする。 ・基礎学力定着のための、ドリル活用や補習については、計画的に実施し、定期的にテスト等により検証していく。 ・PTA総会や学級懇談会等で、読書の重要性を訴える。	○授業研究部の機能を充実させ、基礎の教科となる国語・算数のわかりやすい授業づくりの研究が進んだ。 ○理解の度合いによって三層に分けて指導の手立てを考えることにより、特に理解困難な層への指導が充実してきた。 ○模擬授業などを取り入れたことで、授業イメージを持ちやすく、1時間の授業を計画的に進めることができた。 △早く理解のできる児童への課題準備や発展的な内容の提示など十分でなかった。 △読書活動は、家庭へも働きかけたが、不十分であった。
生徒指導	・児童同士がお互いの良さを認め会える活動を積極的に取り入れ、自己肯定感を高める。 ・規律ある楽しい学校生活づくりにより、不登校を未然に防ぐ。 ・自分の思いを伝える場を多く設定し、伝える力を育成する。	・児童会活動の中に異年齢での取組を多く取り入れ、全校児童のつながりを深める。 ・学校生活のきまりとマナーを再整理し、児童にしっかりと指導することで、規律ある学校生活を築かせる。 ・不登校の未然防止のため、欠席を常に教師全員が把握できるよう小黒板に記入していく。欠席理由等も明確にする。 ・朝会・児童会活動等で全員の前で発表する機会を多く設定し、堂々と発表できるように指導していく。	○異年齢での取組を増やすことで、学年を越えたつながりが深まり、高学年が低学年児童に優しく接する場面が増えた。また、個々の自己肯定感の高まりも感じられた。 ○欠席の理由を全員が把握でき、しづりが発見できた時には、学校として対応し、すばやい取り組みで不登校が未然に防止できた。 △学校生活のきまりについては、ほぼ守って生活できるようになったが、マナーの定着までは至っていない。

健康（体育）・安全	・全校の取組により、体力・持久力の育成を図る。 ・健康な体づくりを推進することで病気による児童の欠席を減らす。 ・地震や自然災害についての防災意識を持たせる。	・期間を決め、朝マラソンや縄跳び練習などの取組を実施することにより、体力の向上を図る。 ・健康な体づくりのための取組を委員会活動の中でも積極的に進め、児童自ら「健康な体づくり」について考え、実践できるようにしていく。 ・避難訓練や災害についての学習などを通して、災害から自分の命を守るためにどうしたらよいか考えさせる。	○校内マラソン大会及び縄跳び大会を目標とした長期間の体力づくりの取組ができ、児童の体力・持久力が向上した。 ○委員会活動で健康について意識的な取組を進められた。 ○インフルエンザが全国的に流行したが、本校では、感染者（欠席者）は一人もなかった。 △防災意識を更に高めさせること必要である。
開かれた学校づくり	・情報発信に心がけ、学校の教育について理解と協力が得られるようにする。 ・PTAや関係機関との連携を強化する。	・HP・学校だよりや学級通信で、保護者や地域に分かりやすいように、本校の教育について伝える。 ・授業参観やオープンスクールを計画的に実施し、保護者はもとより、地域の方々にも参加していただく機会をつくる。 ・特に中学校との連携を強化し、小中一貫教育につなげる。	○定期的に発行する学校だよりで、学校全体の状況を発信し、児童の日々の状況等については学級だよりで発信することで、保護者や地域の理解が得られるようになった。 ○学校公開をすることで、地域の方々の理解が深まった。 △小中連絡会の更に充実した取組を進める。
危機管理	・不審者侵入や突発的な事象などに的確に対応できる児童を育成する。 ・個人情報の管理の徹底 ・交通事故の防止	・避難訓練を定期的に実施し、非常時の判断や行動の仕方について考えさせ、実践できるようにする。 ・PCやメモリー等の取扱い規定を徹底し、児童や保護者の個人情報の流出を防ぐ。また、職員の意識の徹底を行う。 ・交通安全と事故防止について、定期的に指導する。	○地震や火事・不審者侵入などを想定した避難訓練を実施し、非常時にどのような行動をするのか考えさせた。この訓練により、的確な対応ができる足がかりとなった。 ○ニュースなどを教材とし、常に教職員に注意し、意識を喚起した。
特別支援教育	・特別に支援を必要とする児童に対し、よりよい指導・支援方法を研究・工夫し、わかりやすい授業を創り出す。 ・学校での生活において支援を要する児童に対して、きめ細かな支援を行う。	・特別な支援を必要とする児童に対して、個別のアセスメント票や指導計画を作成するなど、きめ細かな支援を実施する。 ・授業研究において、支援の必要な児童への指導方法を研究し実践に取り入れる。 ・支援部を中心に支援のあり方を担任と連携して研究し、保護者とも連携して、よりニーズに合った支援を行う。	○個別の支援計画をもとにした指導を行うことにより、児童の実態に合った支援を行うことができ、学習に集中できるようになり、学力が向上してきた。 ○教師の特別支援教育についての研修が進み、児童の対応がよりニーズに合ったものになってきた。 △保護者との連携を更に充実させることで、学校の指導や支援と家庭での指導や支援の方向性の統一を図りたい。
次年度に向けた改善の方向性	・全ての教師が個々の児童に視点を当てた授業についての研究を進め、授業実践力を伸ばすことで学力の向上を図る。 ・意欲的な学校生活を築くため、自分の力や可能性に挑戦し続ける児童の育成を図る。 ・優しさや思いやりとともにたくましさを身につけた児童の育成を図る。 ・自他の命を大切にするとともに、健康な体づくりを常にこころがけることができる児童の育成を図る。 ・「小中一貫教育」をめざし、小小連携や小中連携を積極的に進め、9年間を見通した教育ができるように研究を進める。 ・保護者や地域と更に連携を強化し、開かれた学校づくり・地域から愛される学校づくりをめざす。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立田村小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 心豊かでかしこく、たくましく意欲的に 生き抜く児童の育成 【めざす児童像】 ・自ら学び考える「かしこい子」 ・相手を思いやる「心やさしい子」 ・ねばり強くやりとげる「たくましい子」		○算数科の課題を追求する練り合い学習や国語の読み取り学習 など、学び方も学ばせ、分かる授業・できる授業をめざした 授業改善によって、一定の学力向上を図ることができた。 △言語力の向上、説明する力を更に向上させる。 △児童会活動、生徒指導、人権学習、道徳教育など、更に心の教 育の充実を図る。	1 組織的・協働的な教育活動の充実を図る。 2 校内重点研究の充実を図り、確かな学力を付ける。 3 児童の実態やニーズに応じた教育の推進と指導力 の向上を図る。 4 安全を確保し、安心して学ぶことができる危機管 理体制を確立する。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・学力診断テストを活用し、学力の実態 把握と課題克服を図る。 ・基礎・基本を定着させ、活用 できる力の育成を図る。 ・日々の授業を充実させる。 (よく考えて、分かりやすく 説明し、伝える力の育成) (めあてを持ち、ねばり強く 努力し、振り返る力の育成)	・算数科の研究を活かした授業改善 ・基礎学力診断テストを活かした学力実態の把握と回復指導 ・学力アップ旬間、家庭学習旬間、補習の充実、朝読書・読 み聞かせ、昼ドリルの指導 ・自分の考えや思いを表現し合い、聞き合い、学び合う学級 づくりの推進	○年度末検証テストの結果、各学年とも学力向上が見られ た。日々の授業改善、ドリル内容の見直しと指導、家庭 との連携、放課後補習などの成果である。また、課題の ある児童への回復指導にも努めた。 ○算数の文章問題で、情報を整理し問題場面を図式化する など、全学年で学び方を指導し、学力が向上してきた。 ○体験活動や問題解決学習を取り入れた授業、話形指導等 により、児童の学習意欲が向上した。 △担任講師の指導力量の向上を図る。
生徒指導	・個性の伸長と社会的資質・能 力・態度の育成を図り、より よい人格の形成を促す。 ・望ましい集団活動を通して、 自らの課題を解決する意欲と 実践力を育成する。	・定期的に児童の実態を交流し、指導に活かす。 ・2ヶ月毎に児童の生活目標を決めて取り組む。(生徒指導 部で、実態を分析し、取組方針を決め、全教職員の共通理 解を図った具体的な取組を推進する。) ・全校指導体制を確立して、異年齢活動を充実させ、よりよ く生きようとする力を育成する。 ・教育相談活動の充実を図る。	○生徒指導部と特別活動部との連携のもと、全教職員の共 通理解を図った具体的な取組を定期的に仕組み、時間を 意識した行動、集合時の待ち方に改善が見られた。 ○児童会活動、異年齢活動により、高学年のリーダー性が 高まり、より温かな雰囲気の校風となった。 ○「今日のきらり」と題して、毎日の掲示で肯定的評価を 積み上げたことにより、規範意識の醸成、自己肯定感等 につながった。 ○学校で気になる児童の様子が見られた場合は、保護者と 連携して早期対応に努め解決できた。

健康（体育）・安全	・基本的な生活習慣の確立を図る。 ・児童の健康状態の把握や情報収集に基づき、保健管理を推進する。 ・学校教育活動全体をととして体力づくりに取り組む。 ・生活、交通、災害に係る３つの安全を柱に指導し、生命の尊厳や人権尊重の心を育てる。	・健康に関する自覚を高めるとともに、保健学習や保健指導の充実を図り、健康づくりに取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせる取組（中間・給食前・掃除後のうがい、手洗い、歯磨き）（給食時の手の消毒、歯磨き、マスク着用） ・生活点検の実施と結果に基づいた指導 ・体重測定時におけるミニ保健指導の推進 ・登下校時の安全を確保する。（下校時のパトロール、付き添い下校の実施） ・校内の安全点検、交通教室、避難訓練（火災、地震、不審者対応）の実施	○学校及び家庭におけるうがいや手洗いの励行について、徹底して指導したことにより、風邪やインフルエンザによる欠席がほとんどなかった。 ○朝マラソン、大縄跳び、短縄跳びの練習により、学年相応の体力の向上につながった。 ○一人で下校しなければならない低学年児童に対し、教員による付き添い下校を実施し、安全及び安心を確保した。 ○校内の安全点検、交通教室、避難訓練、防犯訓練を実施し、命を守るための心得や行動の仕方を学ばせた。 △自然災害に係る指導はおこなってきたが、津波を想定した避難訓練は実施できなかった。
開かれた学校づくり	・学校の情報発信に努める。 ・PTA、地域との関係機関との連携を図る。	・学校だより、学級だより、HPで学校の様子を分かりやすく発信する。 ・学年別授業参観や学級懇談会、祖父母参観、保護者学級の実施による家庭や地域との連携を図る。 ・地域の人々に「温かく見守られている感覚」を高めるために、公民館活動等へ協力をする。	○学校行事の様子や児童の頑張りを、肯定的な評価とともに学校だよりや学級だよりを通してよく発信できた。 ○行事实施後や学期末等のアンケートで、保護者や地域住民の評価を知ることができた。 ○地区文化祭では、PTAや地域とよく協力できた。 △HPは更新してきたが、更なる内容の充実が必要である。
特別支援教育	・特別支援学級に在籍する児童の障害の克服を目指した教育活動を推進する。 ・通常の学級に在籍し、発達障害のある児童についても指導の充実を図る。	・特別支援学級と在籍児童についての教職員の共通理解 ・学校行事を見直し改善して、支援学校適の障害のある児童も、一緒になってやり遂げる学校行事の推進 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用 ・指導の記録化とそれを活用した指導	○巡回教育相談や研修による指導改善の結果、特別支援学級在籍児童に体力や社会性等の大きな伸びが見られた。 ○個別の指導計画の活用、見通しを持たせた取組や丁寧な指導の積み上げにより、発達課題のある児童の学び方が変わり、学力が向上した。 △医療関係機関と連携し、個別の教育支援計画の見直しができなかった。
特色ある学校づくり	・地域の農家や福祉施設などを活用した取組の充実を図る。	・地域の農家における果樹栽培や稲作の体験学習 ・果樹栽培についての調べ学習 ・居宅介護施設「田村ゆうゆうの里」での交流学习 ・学校支援ボランティアを活用した学習	○保護者の協力を得て、果樹栽培や稲作の調べ学習や体験活動を実施し、地域に根ざした教育を展開できた。 ○介護施設「田村ゆうゆうの里」を訪問し、利用者との交流を深め、思いやりの心の育成につながった。 ○学校支援ボランティアを活用し、音フェスで美しい歌声を発表したり、絵画作品の質的向上を図ったりできた。
次年度に向けた改善の方向性	・学校再配置及び小中一貫教育に向け、学力向上、心身ともに健康でたくましく生きる力の育成を図る。（家庭・地域との連携、更なる授業改善、学級経営と授業づくりの一体化、閉校に向けた取組の推進） ・京丹後市給食教育研究会の研究発表会の会場校として、食育指導・給食指導の充実と言語力の向上を関連させた取組を充実・推進する。		

(別紙様式1)

平成23年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立神野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学びあい 認めあい たくましく生きる 神野っ子の育成		○チャイム行動、学習面ともに規律面の向上が図ることができた。 △好ましい人間関係を構築し、自分の言葉で豊かに表現する力を育成する。 △最後まで根気強く協力してやり遂げる力を育成する。	①質の高い学力を充実・向上させる。 ②心のつながりがある学級、全校集団を育てる。 ③最後まで、根気強く、頑張り合う力を育てる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 基礎的・基本的な学習内容の習得と思考力・判断力・表現力の向上を図る。 2 学習規律の確立を図る。 3 児童が主体的に学ぶ授業づくりを行う。	①ねらいを持った授業を行い、展開を工夫し「聞く・話す・書く」を軸にした活発な授業づくりを進める。 ②「総合的な学習の時間」の指導を柱にして、思考力・判断力・表現力について研究を深める。 ③チャイムで行動し、聞く・話す態度の指導を行う。 ④評価活動を活発にして、やる気を育てる。	○思考スキルを導入することによって、思考力・判断力・表現力の育成について研究が深まった。 ○チャイムで行動ができ、顔を見て話を聞いたり、相手を意識して発言したりすることができた。 ○集中して授業に向かい、集団で学び合う授業づくりが進んだ。 △今後、家庭における学習と授業の一体化を図る。
生徒指導	1 月目標設定による指導を行い、規範意識の醸成を図る。 2 好ましい人間関係を育成する。 3 問題事象の迅速・丁寧な解決を図る。	①児童会に月毎の目標を持たせ、学級での取組を進める。 ②生活目標を設定して、規範意識の醸成を図る。 ③学習や取組の中で、自分の頑張り、他の人の良さを発見させる場面を設定する。 ④学級指導・保護者対応など速やかに取り組む。	○あいさつの励行・時間を意識する行動等の規範意識が高揚してきた。 ○教員の評価、児童同士の評価活動から、好ましい人間関係が少しずつ作られてきた。 ○児童間のトラブル、事故等の発生時には、事実の把握、保護者への連絡など必要な対処ができた。
健康（体育）・安全	1 健康・体力の増進を図る。 2 安全の確保を図る。 登下校指導の徹底 廊下歩行	①早寝・早起きなどの生活習慣づくりをPTAと連携して進める。 ②朝マラソン、縄跳びなど継続して取り組む。 ③登下校の見守りの一層の充実を図る。廊下歩行の指導を行う。	○生活習慣づくりの取組によって、児童自らが生活習慣の大切さに気付き始めた。 ○朝マラソン、縄跳びなどを継続して取り組み、改善が図られつつある。 △廊下歩行等に取り組んだが、継続に課題を残した。

開かれた 学校づくり	1 情報を適切に保護者に伝える。 2 保護者・地域との連携に努める。	①学校だより、学級通信の定期的な発行、取組のお知らせを適宜発行する。 ②地域への情報発信を行う。 ③ホームページの定期的な更新を行う。	○定期的に学校だより、学級通信などを発行することによって、保護者、地域の方々に本校の教育活動について理解して頂けた。 △ホームページの更新が定期的にできず、タイムリーに情報提供できなかった。
研修(資質 向上の取 組)	1 「基礎的・基本的な知識・技能の習得させる」指導の充実を図る。 2 「総合的な学習の時間」の研究を通して児童が主体的に学習し、探究する力、思考力・判断力・表現力を付ける実践方法を身につける。 3 心のかよいあう学級をつくる。 (学級経営)	①研究授業を継続的に進める。 ②グループ研修会、全教員における研修会を定期的に開催し、お互いの実践から学び合う。 ③「総合的な学習の時間」を柱にして、探究する力、思考力・判断力・表現力の育成に向けて研究を深める。 ④各担任のこだわりのある実践を交流し、お互いに学び合う機会をもつ。	○全教員が、年間1回は、研究授業・公開授業を実施し、授業力をつけあうことができた。 ○「総合的な学習の時間」の2年次の研究発表や各担任の実践をまとめることから、探究的な力、思考力・判断力・表現力についての研究が深まった。 ○定期的に学級経営の交流会を持ち、お互いに学び合い、自分の実践に取り入れ、全体の学級が落ち着いた状況になった。
特別支援 教育	1 校内サポート体制の確立を図り、個の指導に役立てる。	①定期的に会議を開催し、児童実態を明らかにする。 ②個にあった指導について学習を行い、学力、社会性の向上を図る。	○ 気になる児童についての指導を組織的に検討し、個への指導に生かすことができた。 △ 個別の指導計画等に基づいた指導の充実を図り、学力、社会性の向上を目指す。
次年度に 向けた 改善の 方向性	①児童の仲のよい関係を一層育み、一体感を高め、自分たちで課題を解決しあう力を伸ばし、意欲的・チャレンジ精神に満ちあふれる学校を目指したい。 ②授業づくり、学級づくりの一体化をさらに進め、家庭学習をさせることと結びつけた指導により、学力の一層の向上を図る。 ③「総合的な学習の時間」において付けた思考力・判断力・表現力を教科学習の中に生かす。 ④児童自らが安全を意識した行動がとれるように指導を積み上げたい。 ⑤児童を健やかに成長させるために、協働して取り組む教職員集団を作りたい。		

(別紙様式1)

平成23年度 学 校 評 価 自 己 評 価 報 告

学校名〔京丹後市立湊小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く児童の育成」		○国語科を重点に、児童相互の伝え合う授業づくりを推進し、自分の言葉で伝え合う学びが広がってきた。 ○「三合い活動」を意識し、児童の関係づくりが進んだ。 ○発達課題のある児童への指導を丁寧に進める中で、学習や集団への積極的な関わりが見られるようになってきた。 △わかる授業づくりと学力の全体的な底上げ △学校評価を積極的に生かした学校改善	「一人一人の確かな学力と温かな心を育む学校」 1 分かる・出来るが実感出来る授業づくりに努める。 2 個に応じた指導に努め、教育活動を進める。 3 いじめ・不登校の未然防止及び解消を目指し、機敏での確な教育活動に努める。 4 保護者・地域社会との連携に努め、信頼され開かれた学校づくりを進める。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1) 基礎・基本を徹底し、確かな学力をつける。 (2) 個の学習状況に応じた指導内容を充実させる。	・朝読書・「全校一万冊読書」の取組や朝ドリル、ミナトップ・放課後補習等を行い、学力の充実を目指す。 ・学力診断テスト等の結果分析及び課題把握を行い、授業改善に努め、学力検証テスト（DRT）を実施し検証する。 ・国語科を中心に、言葉を重視した個々の思いや考えを豊かに伝え合う授業づくりを充実させる。 ・小規模校の良さを生かした授業づくりや複式学級における授業のあり方を工夫する。 ・個別の課題を把握し、個に応じた指導や授業形態等を工夫する。 ・「家庭学習の手引き」等を活用した家庭学習の充実を図る。	○朝読書や「全校一万冊読書」の取組等により、意欲的に読書に親しみ、1校時から学習に向かう姿勢が向上した。 ○学力診断テスト等の結果を分析し、学力課題を把握し共通理解した。また、授業改善や検証テスト等の取組を通して学力の向上・充実に努めることができた。 ○国語科「説明的な文章」の授業づくりを進め、児童が積極的に発言し意欲的に学習する姿が見られるようになった。 ○模擬授業を行い、複式学級の授業づくりを工夫した。 △個別指導を大切にし、より楽しい授業づくりを目指す。 △活用状況を検証し、家庭学習の習慣化に努めていく。
生徒指導	好ましい人間関係を図ると共に、一人一人の個性を伸ばし、課題に取り組む意欲と実践力を育てる。	・学年を超えた児童の関わりを重視した異年齢活動の取組を充実させるため、学期ごとの行事を重点化しながら取組を進める。 ・「運動会」「キッズフェスティバル」「大縄大会」等、学校行事と学級活動等をつなげた取組を充実させながら、タイムリーに評価をすることで、達成感を味わわせる。 ・保小・小中連携を充実させ、一人一人の課題を共通理解しながら、丁寧な指導を行い児童の意欲を伸ばす。	○重点化した行事で、異年齢活動（三チーム）取組が活発になり、低・中・高学年の児童間の関係が良好になった。 ○「運動会」「キッズフェスティバル」「大縄大会」等の取組の評価により、一人一人が達成感を味わうことができた。 ○日常より保育所・中学校との連携を密にした。課題のある場合は教育相談を行い、児童へ丁寧な指導を行うことができた。落ち着いた学校生活を過ごすことが出来た。

健康（体育）・安全	自分の心や体を見つめ、より健康で安全に生きようとする児童を育成する。	・体や健康に対する意識の高揚を図るために、養護教諭や担任による日常からの保健や学級指導を充実させる。 ・毎日の給食時間や給食週間における給食指導及び中学校の栄養教諭による食育指導を計画する。 ・年間を通したマラソンや縄跳び及び外遊びを計画し、体力作りに努める。 ・見守り隊やPTA、関係機関と連携した安全指導	○学級担任や養護教諭の日々における保健指導、放送や下校時にインフルエンザの予防等について呼びかけを通して、児童の健康に対する意識が高まった。 ○毎日のランチルームでの給食指導や食育指導の充実により、食に関心を持ち、生産者に感謝する気持ちが高まった。 ○マラソンや縄跳びなどを通して体作りを進めた。 ○PTA、地域を巻き込んだ安全な登下校の取組が進んだ。
特別支援教育	(1)個の教育的ニーズに応じた課題の克服に努める。 (2)特別支援学級の充実に努める。	・教育相談部会の定例化を図り、個のニーズを重視した指導を充実させ、課題の克服を目指す。 ・交流学級との連携を強化し、個別の指導計画に沿った指導を丁寧に進める。	○丁寧な教育相談活動で、個のニーズに応じた指導が進み、課題のある児童が落ち着いて学習に向かう様子が見られるようになった。 ○個別の指導計画の実践により、児童が意欲的に発表をする様子が見られるようになった。また、交流学級の児童との関係が良好になった。
研修（教員の資質向上）	(1)国語科を重点教科に、授業実践力の向上に努める。 (2)教員としての資質能力の向上に努める。	・国語科の研究授業をもとに、豊かな伝え合いを目指す授業づくりを進める。 ・外部講師を活用した研修を行う。 ・新たな課題に対応した研修内容を充実させる。	○発表会に向けて、豊かに伝え合う授業づくりについての研修を重ね、児童同士が意見を交流し、思いを伝えることが出来るようになった。 ○京都府総合教育センターの出前授業等を活用した校内研修を行い、国語科の実践に役立てた。 △教員としての資質能力を高めるために、授業のあり方や学級づくりについての研修を重ねていく。
開かれた学校づくり	(1)保護者・地域との連携を深め、信頼される学校づくりに努める。 (2)積極的な情報発信に努める。	・学校関係者との定例的な懇談会を開催し、教育活動を具体的に説明し交流する中で、連携を深める。 ・地域の自然や文化等を生かした地域学習の取組を充実させるために、地域における人材を活用し授業を進める。 ・学校便りや学級だより、HPなどを活用し、教育活動を保護者や地域へ発信する。	○授業参観や懇談会により、学校への理解・協力が進んだ。 ○学校再配置事業における「新しい学校づくり」に向けた取組への支援・協力をお願いし、取組が具体化した。 ○地域学習での学びを、学校便り・学級だより・HPで知らせ、教育活動の様子を発信することが出来た。
次年度に向けた改善の方向性	1 授業づくり、学級づくりを柱に、研究・実践と学力の充実・向上を一体化させる。 2 多様な活動により自己肯定感を高め、児童の関係づくりを一層確かなものにしていく。 3 学校評価を踏まえ、評価の在り様を見直しながら積極的に学校改善につなげる。 4 学校再配置事業における「新しい学校づくり」に向けて、三校の連携と小中連携、さらに保護者・地域との連携を深めながら取組を進める。		